

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護学へようこそ	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	単位・時間						
			所属	専任教員	1 年次 前期	1 単位 30時間						
			実務経験	臨床看護師								
科目的ねらい	『看護学へようこそ』は、全ての看護学の入り口である。つまり、「看護とは何か」「看護師は何をする人なのか」を考え探し、看護の位置付け、専門性を理解するとともに、これから学ぶ各専門看護学への礎になることを認識する。											
到達目標												
知識・技術	1. 看護の概念の変遷を説明できる。 2. 看護技術を学ぶことの意義と重要性を理解し、看護における「安全・安楽・自立」について説明できる。 3. 健康の概念の変化を捉え、WHOが提示する健康方策について説明できる。 4. 看護と人間の関係について説明できる。 5. 看護の対象としての「人間」を理解し説明できる。 6. 看護の機能と役割から、看護の専門性を説明できる。 7. 看護職における法的規制と制度を理解し、看護実践における責務を説明できる。											
思考判断・表現	1. 看護が時代と共に発展してきた過程を通して、これから看護師に求められることについて考察し言語化することができる。 2. 看護の概念枠組み（人間・環境・健康・看護）の理解が看護実践に大きく影響することを説明できる。 3. 今なぜ、SDGsが叫ばれているのか、WHOが提示する健康方策から考察できる。											
主体的学習態度	1. シラバスを活用し、積極的な検索行動がとれる。 2. 検索した情報を熟読し、再構成できる。 3. 主体的に学習したものボートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物をさらに凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。											
科目評価	随時試験	①ポートフォリオの提出 ◎ 25% ②課題レポートの提出 ★ 25% ③小テスト ※-1 ~ 3 30% ④まとめテスト ※-4 20%			合計 100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 (メディカ出版)											
参考文献	看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 (日本看護協会出版社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版社) ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (メディカ出版) ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院) 系統看護学講座 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 新体系 基礎分野 心理学 (メヂカルフレンド) ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 ②医療安全 (メディカ出版) 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 (医学書院) 私たちの振りどころ 保健師助産師看護師法 (日本看護協会出版社)											
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項							
1	プロローグ ようこそ！看護の世界へ 今看護師に求められていること	○	前田 寛美	心理学 発達心理学 医療現場のコミュニケーション 健康教育 公衆衛生 看護理論の基礎 看護過程 医療安全 国際看護 看護マネジメント	★1 課題レポート（提出） ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論の序章を読み、自分が考える看護と比較し、今改めて思うこと ☆1 事前検索 「2003年新たな看護の在り方にに関する検討報告書」							
2	1. 技術概念から見た看護 2. 看護技術の原則：安全・安楽・自立	○			★2 事前検索 用語の意味を調べておく 1) ADL, IADL 2) アドボカシー、アドボケイト							
3	看護の概念の変遷 1) ナイチンゲール以前の看護 2) ナイチンゲールの功績 3) ナイチンゲール以降の看護の発展	○			★3 事前検索 1) ナイチンゲールの功績 2) ジュネーブ条約と国際赤十字 3) ブラウンレポート 4) (WHO) 看護にあたる者の任務について							
4	日本の看護の変遷 1) 明治以前の概要 2) 明治以降の看護職の成立と制度 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の入札確保の促進に関する法律 (3) 看護職の資格と制度 3) 看護職の継続看護とキャリア開発 (1) 看護職の専門分化 認定看護師、専門看護師	○			★4 事前に概要を調べ要點をまとめておくこと。 飛鳥時代～江戸時代までの医療・看護の変遷 日本と欧米の比較							
5		○			★5 事前に質問を調べ要點をまとめておくこと。 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の入札確保の促進に関する法律 ※-1 小テスト（範囲）「日本の看護の変遷」 2) , 3)							
6		○			★6 事前に検索し概要をまとめておく 1) 世界人権宣言、社会権利約、国際人権規約 2) WHO 3) 日本国憲法第25条 4) 健康日本21							
7	1. 看護の概念枠組み 人間・環境・健康・看護 2. 環境 1) 環境の概念 2) 環境と人間の関係	○			★2 課題レポート（提出） (テーマは、講義終了後に掲示によりお知らせします。) ※-2 小テスト（範囲）「健康」 1) ~ 4)							
8	健康 1) 健康の多様な特徴と健康の定義 2) 健康現象の捉え方 (1) 5つの予防 (2) 健康の判断 (3) 統計から見える健康 (4) 健康寿命	○			★6 事前に検索し概要をまとめておく 1) 世界人権宣言、社会権利約、国際人権規約 2) WHO 3) 日本国憲法第25条 4) 健康日本21							
9		○			★7 事前検索 1) エリクソン、ハヴィーガースト、レビンソンの発達理論について調べる 2) 「防衛機制」について調べる 3) ロイ適応看護理論の理解と実践（医学書院）のP24（役割機能式の概要）、P107~P108（個人の役割機能式）を読み、要約しておく							
10	3) WHOの健康方策 PHCとHPの概念とSDGsの関係 4) 日本における健康方策：健康日本21	○			※-3 小テスト（範囲）「看護の対象」 1) ~ 4)							
11	看護の対象 1) 身体的側面から見た「人間」 (1) ホメオスタシス (2) 成長発達の特徴 (順序性・連續性・臨界期) 2) 心理的側面から見た「人間」 (1) マズローの欲求階層 (2) ストレスとコーピング (3) 危機理論 ブリンク、ショーン、コーン、岩坪、キュー・プラ・ロス 3) 社会的側面から見た「人間」 役割理論 4) 健康障害に伴う患者心理の特徴	○			◎講義終了後ポートフォリオを提出(提出日は指示) ①※-1 ~ 7に対する受講後の学習追加状況 ②小テストの見直し ③その他主に実践で学習を深めるために利用した資料など ※-4 まとめテスト							
12		○										
13	看護 1) 看護の目的 2) 看護の方法：看護過程 3) 看護の4つの機能	○										
14		○										
15	まとめ	○										
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。											

## 基礎看護学

### 専門分野

授業科目	看護理論の基礎	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	単位・時間			
			所属	専任教員	1年次 前期	1単位 15時間			
			実務経験	臨床看護師					
科目的ねらい	看護理論は、看護を実践するうえで重要な意味を持ち、実践の中に存在するものである。この科目では、まず看護理論の必要性と代表的な複数の看護理論の概要について学習する。そして、さらに詳しく学ぶために、1つの看護理論を取り上げる。ここでは、ロイ適応理論を挙げ、「適応システムとしての人間」について理解を深める。								
到達目標									
知識・技術	1. 看護理論の必要性について説明できる。 2. 代表的な看護理論家を複数取り上げ、その特徴的な看護理論について、人間・健康・環境・看護を視点にまとめることができる。 3. ロイ適応看護理論の概要を説明できる。								
思考・判断・表現	1. 看護理論を基盤に実践する看護と理論的基盤を持たず実践する看護を比較し、看護理論の果たす役割を説明できる。 2. 各看護理論を比較検討し、特徴の違いが看護実践に与える影響を考察できる。 3. ロイ適応看護理論を基に、3つの刺激を捉えることは、予測した看護につながることを説明できる。								
主体的学習態度	1. 興味を持つ看護理論家の文献を抄読する。 2. 講義で提示された課題について、グループメンバーと積極的に意見交換ができる。 3. 自らの解釈と他者の解釈を比較検討し、受容していくことができる。								
科目評価	プレゼンテーションのグループ評価 20% 隨時課題の提出状況 20% 最終課題レポート 60% 合計 100%								
テキスト	<b>ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版</b> (医学書院) <b>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論</b> (メディカ出版)								
参考文献	ザ・ロイ適応看護モデル (医学書院) はじめての看護理論 (日総研) ロイ適応看護論入門 (医学書院) 看護理論 理論と実践のリンクページ (ヌーベル ヒロカワ) ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 (日総研)								
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項				
		講義 演習 その他							
1	看護理論の概要 1. 看護理論が必要な理由 2. 理論の範囲 3. 看護学のメタパラダイム (概念的枠組み) 4. 看護理論の発展	○		前田 寛美  各専門看護学	看護理論のプレゼンテーション 1) 代表的な看護理論家を8名提示 2) 8つのグループを編成し、グループ毎に理論家1名を選定 3) グループワークを計画的に行いプレゼンの準備をする 4) 詳細は講義の中で説明する。				
2	ロイ適応看護理論へようこそ 1. 適応システムと人間	○							
3	2. 刺激と行動、適応レベル	○							
4	代表的理論家の看護理論を プレゼンしよう	○							
5	3. 適応を促す看護 4. 対処プロセスと4つの適応様式 5. 適応システムと看護	○							
6		○							
7		○							
8		○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 基礎看護学

### 専門分野

授業科目	看護倫理	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	単位・時間
			所属	専任教員	1 年次 前～後期	1 単位 30時間
			実務経験	臨床看護師		

科目的ねらい 職業倫理としての「看護倫理」、そして「生命倫理」の観点から、看護職者の自律性と対象の権利擁護、看護実践における法的な責任と倫理的責務について考えてみる。そして、専門職に求められる倫理について、看護師としてるべき姿勢について、常に自問していくことを期待したい。

### 到達目標

知識・技術	1. 法的責任と倫理的責務の関係について説明できる。 2. 患者の権利とインフォームドコンセントについて、その基本的知識と関係性（歴史的変遷）について説明できる。 3. プライバシーと守秘義務について説明できる。 4. 倫理原則と価値、そして倫理的ジレンマの関係について説明できる。 5. 患者の意思決定支援としての事前指示書について説明できる。 6. 現代医療における倫理的侧面を持つ事例を調べ、倫理的課題を示すことが出来る。					
	1. インフォームドコンセントの注意すべき側面を指摘できる。 2. 事例を通して、倫理的ジレンマと「患者にとって良いこと」の討議ができる。 3. 日本看護協会「看護職の倫理綱領」を使って、事例を検証できる。 4. 生命倫理に関するテーマに対し、自らの主張をディベートによる討議で発表できる。 5. 医療の発展と生命倫理の抱える課題について検討できる。 6. 「生」「死」をテーマにした様々なジャンルの書物・映像に積極的に触れ、自らの価値観を看護職の立場で問い合わせ直す。					
主体的学習態度	1. 他者の意見を傾聴できる。 2. 自分と異なる価値観、考えに触れ、自分の考えと比較し取り入れる姿勢を示すことができる。 3. グループワークを通して、自ら積極的に協働する姿勢を示すことができる。 4. 自らの行動を「倫理原則」「看護職の倫理綱領」に照らし内省し、看護師としてあるべき姿勢を示すことができる。 5. 「生」「死」をテーマにした様々なジャンルの書物・映像から、興味を持ったものをクラスメートに紹介できる。 6. 主体的に学習したものをポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物をさらに凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。					
科目評価	随时試験	①ポートフォリオの提出 ②グループワーク参加（出席）状況 ③小テスト ④課題レポート	30% 20% 10% 40%		合計100%	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 (メディカ出版)					
参考文献	看護のための生命倫理 改定三版 (ナカニシヤ出版) 看護が直面する11のモラル・ジレンマ (ナカニシヤ出版) 看護倫理 見ているものが違うからおこること (医学書院) 看護倫理学入門 文学作品を通して感性と問題解決能力を高める (医薬出版株式会社) 美しいままで オランダで安楽死を選んだ日本女性の「心の日記」 (祥伝社) ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (メディカ出版)					
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項	
1	なぜ、看護倫理を学ぶのか 法的責任と倫理的責務	○			授業全体についてや課題、文献検索の資料、グループ活動の中で学習した資料、その他主体的に学習を行った成果物をポートフォリオとして整理していくこと  ☆1課題 倫理学の復習をしておく（要点を整理しておく）  ☆2課題 患者の権利に関する、国際的な宣言や条約を調べる。  ※小テスト 「患者の権利とインフォームドコンセント」1～3  ☆3課題 事例検討の内容について、不明な点や興味を持った点など主体的に調べる。  生命倫理に関するテーマを取り扱う。 課題レポートを隨時提示、決められた期日までに提出すること。  ◎講義終了後ポートフォリオを提出(提出日時は指示) ○☆1～3課題に対する受講後の学習追加状況 ○小テストの見直し ○その他主体的に学習を深めるために利用した資料など	
2	プライバシーと守秘義務	○				
3	患者の権利とインフォームドコンセント 1. 歴史的変遷	○				
4	2. インフォームドコンセントの要件	○				
5	3. インフォームドコンセントの課題	○				
6	倫理的ジレンマと倫理的意意思決定 (倫理判断)	○				
7	1. 倫理原則と「看護職の倫理綱領」	○				
8	2. 価値について	○				
9	3. 事例検討	○				
10	生命倫理とは	○				
11	現代医療におけるさまざまな倫理的問題を考える 例)「人」の生命の始まり 「デザイナーベビー」は許されるか 胎児組織の研究利用 安楽死 減数（減胎）手術は許されるか等	○				
12		○				
13		○				
14		○ ○				
15	まとめ	○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。					

基礎看護学

専門分野

授業科目	療養生活援助技術 I	講師	氏名	①戸田真理 ②西岡加代子	開講年次 1年次 前期	単位・時間 1単位 30時間				
			所属	①②専任教員						
			実務経験	①②臨床看護師						
科目的ねらい  人々が環境条件を整えることは、それぞれの健康の保持・増進・回復を助けている。特に健康障害のある人に対しては、特殊な条件を考慮し生活環境を整えることが必要とされている。また、看護師は絶えず感染の可能性と相対していること、同時に多くの易感染者を対象としていることをよく理解し感染予防の意義と、その予防対策として、スタンダードプリコーションの基本を学ぶ。また、様々な援助場面に必要なボディメカニクスの理論、知識を学び、さらにボディメカニクスを活用した移乗・移送技術を修得する。ここでは、患者の安全・安楽を維持する為の看護技術を学ぶ。										
到達目標										
知識・技術	1. 人間を取り巻く環境・生活環境の意義について説明できる。 2. 対象に応じた環境整備ができる。 3. 感染予防の意義・目的を説明できる。 4. スタンダードプリコーションを説明できる。 5. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防対策が実施できる。 6. ボディメカニクスの理論、知識を説明できる。 7. ボディメカニクスを活用し対象の移乗・移送ができる。									
	1. 演習で学んだ技術を様々な対象者を想定し、対象に応じた援助技術を考えることができる。 2. 演習で学んだ技術を様々な健康障害を持つ対象を想定し、対象に応じた援助技術を考えることができる。									
主体的学習態度	1. 演習前後に自己練習ができる。 2. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。 3. 主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。 4. 主体的に教員に指導を受けるためのアプローチができ、常に技術修得に向けた行動がとれる。									
科目評価	①定期試験(筆記) 80% ポートフォリオ20% 合計100% ②定期試験(実技) 100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。									
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 (メディカ出版) 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護学技術 II (医学書院)									
参考文献	看護技術プラクティス (Gakken) 写真でわかる基礎看護技術アドバンス (インターメディカ)									
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項			
		講義	演習	到達レベル				その他		
1	1. 感染とその予防の基礎知識 感染と感染症 感染成立の条件 感染予防 1) スタンダードプリコーション (標準予防策) 2) 感染経路別予防策 3) ガウンの種類	○	I		戸田真理	テキストに提示しているQRコードから動画を視聴し、演習に臨む。 演習時は白衣着用、アツルーム 演習後は事後学習をポートフォリオに追加する。				
2	4) 手洗いの実施 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン、フェイスシールド等）の選択・着脱	○	I			事前課題 スタンダードプリコーションに基づく手洗い				
3	5) 使用した器具・用具（體盆・ワゴン・鑷子・トレイなど）の感染防止の取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い 誤認防止対策	○	I			事前課題 感染性廃棄物 誤認防止				
4	2. 快適な療養環境の整備 1) 病室・病床環境 ベッドの構造 プライバシー 快適な病床環境の整備	○	I			事前課題 快適な療養環境について 病室・病床・室温・湿度照明				
5	2) 安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防) 3) 環境整備	○	I							
6	3. 活動・休息介助 ボディメカニクス	○	I							
7	歩行・移動介助 体位変換・保持	○	I							
8	自動・多動運動の援助	○								
9	基本的なベッドメーキング	○	I			事前課題 ベッドメーキングを事前に動画視聴して自己練習し、担当教員の指導を受けたあと講義に参加すること				
10										
11	4. 移乗・移送介助 車椅子・ストレッチャーの構造と機能	○	I							
12	1) 移乗・移送介助	○	I							
13	2) 車椅子・ストレッチャーの 移乗・移送の援助技術	○	I							
14	まとめ (臥床患者のリネン交換)	○	I			事前課題 臥床患者のベッドメーキングを事前に動画視聴して自己練習し、担当教員の指導を受けたあと講義に参加すること				
15										
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。									

基礎看護學

東門分野

基础看護学

専門分野		授業科目 フィジカルアセスメント	講師 氏名 権田園美 所属 専任教員 実務経験 臨床看護師	開講年次 1年次 (後期)	単位・時間 1単位 30時間			
科目的ねらい								
対象を捉えていくためには、対象の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から統合的に捉えていくことが必要となり、それがヘルスアセスメントである。その中の特に身体的な情報を収集・査定していくことがフィジカルアセスメントである。 看護におけるフィジカルアセスメントは、対象の健康状態の情報を収集して、その情報を専門的知識に基づいて分析・解釈し、対象の状況を判断し援助に活かす事である。正確なフィジカルアセスメントを行うためには、フィジカルイグザミネーションの正確な技術が不可欠である。これは、身体本況を客観的・系統的に把握する方法で、問診・視診・触診・聴診・打診などの技術を用いて行っていくことであり、この技術により得た情報は、専門基礎知識（からだの構造・からだの機能・病理学総論・各疾患など）を活用して解釈され、正常・異常の判断とともに、対象に必要な援助の抽出につながっていく。つまりフィジカルアセスメントを学ぶことは、適切な臨床判断と科学的根拠を持った看護技術の提供には不可欠なものといえる。ここでは、臨床判断能力の基礎となるヘルスアセスメントに不可欠なフィジカルイグザミネーション及びフィジカルアセスメントの基礎的技術を習得する。								
到達目標								
知識・技術	1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性について説明できる。 2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的を説明できる。 3. 測定可能な生命徵候（バイタルサイン）である、体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定を正確に実施できる。 4. 健康歴・バイタルサインの記録を正確に記載できる。 5. 全身及び系統別に把握するためのフィジカルイグザミネーションの方法・留意点について説明できる。 6. 全身及び系統別に把握するためのフィジカルイグザミネーションを正確に実施できる。 7. 呼吸器系・循環器系・消化器系・感覚・中枢神経系・上肢筋・骨格器系のフィジカルアセスメントの前提となる基礎的知識を述べることができる。 8. フィジカルイグザミネーションにより得た情報について、アセスメントの前提となる基礎知識を使って解釈・判断できる。							
	1. 事例から身体状態を論理的に思考・判断し、考えられる健康上の問題を1つ以上記述することができる。 2. バイタルサイン及びフィジカルイグザミネーションの実施では、得られた情報と適宜判断しながら重点アセスメントしなければいけないことに気づくことができる。 3. 得られた情報の異常の判断を、正常値だけで判断せず、対象の健康段階や他の要因との関係を加味することで、対象に応じた判断が選択できる。 4. 専門基礎知識をより多く活用することが、正確な判断を導く手段であることを確認できる。 5. 事例に対して、フィジカルイグザミネーションの適切な優先順位を検討し、組み立て、実施し、その妥当性を対象の立場、医療者の立場で評価できる。							
主体的学習態度	1. 既修の専門基礎知識については、主体的に復習し、活用できるように再構成できる。 2. 技術修得の為に、演習前後の自己練習を実施し、技術の修得に臨むことができる。 3. 学習に必要な文献検索を行い主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。							
	①定期試験（実技）100% ②定期試験（筆記）80% 演習レポート（事前課題・事後課題の手順書、3回分の演習後レポート）10% プレ・ポストテスト10% 合計100%							
科目評価	③ともに合格した者を単位取得とする。							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版） 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I（医学書院）							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学（メディカ出版） 看護技術プラクティス（Gakken） 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス（インターメディカ）							
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項			
1・2	1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2) フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 3) 看護におけるヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義	講義 ○ 演習 遅延レベル その他	権田園美		※2冊のテキストの該当ページを熟読しておく。 ①初回プレテスト			
	2. フィジカルイグザミネーションの基本 1) 問診とフィジカルイグザミネーションの関係 2) 問診の技術 3) フィジカルイグザミネーションの4つの基本技術 (1) 視診 (2) 觸診 (3) 打診 (4) 聽診	○ ○						
3	3. バイタルサイン（生命徵候） 1) 恒常性維持とバイタルサインの関係 2) バイタルサインのメカニズムと正常値及び測定方法 (1) 意識 (2) 呼吸 (3) 脈拍 (4) 血圧 (5) 尿量	○ ○ II	権田園美		※2冊のテキストの該当ページを熟読しておく。 ①「からだの構造」「からだの機能」を活用 ②各3回プレテスト又はポストテスト			
4	4. 看護記録 1) 健康歴 2) バイタルサインなどの記録表	○ ○ II			※事前課題・事後課題 ①事前に配布するバイタルサイン技術評価表を使って、手順書を作成する。 ②自己練習・演習を通して、手順書に修正追加の加筆をしていく。			
5	5. バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）の実際	○ ○ II	権田園美		①作成した手順書を使い、演習前後に必ず自己練習をする。 ②演習時手順書は常に持参し、修正追加の加筆をしていくこと。			
6	6. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系	○ ○ II			系統別フィジカルアセスメント ①「からだの構造」「からだの機能」を復習しておく ②各回プレテスト又はポストテスト			
7	2) 心臓・血管系	○ ○ II	権田園美		※事前課題・事後課題 ①各講義開始までに、2冊のテキストの該当ページを熟読し、手順書を作成すること ②手順書は演習時持参し活用、必要時修正追加の加筆すること			
8	3) 消化器系	○ ○ II						
9	4) 筋・骨格系	○ ○ II	権田園美					
10	5) 神経系	○ ○ II						
11	6) バイタルサインとフィジカルアセスメントの実際 シミュレーション（1）	○ II	権田園美		事例を用いた演習 ①演習前後に必ず自己練習を実施。 ②3回の演習では、「演習後レポート」を記載			
12	7) シミュレーション（2）	○ II						
13	8) シミュレーション（3）	○ II	権田園美					
14	9) まとめ 看護に不可欠なフィジカルアセスメント	○			演習レポート（事前課題・事後課題の手順書、3回分の演習後レポート）をファイリングして、講義終了後に提出			
備考	【演習時】 ①学校指定のジャージ上下を着用 ②原則、アーツルーム	※変更がある場合は、グーグルクラスルームで伝達します。						
臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 基礎看護学

## 専門分野

授業科目	看護過程	講師	氏名	前田寛美	開講年次	単位・時間		
			所属	専任教員	1年次 後期	2単位 45時間		
			実務経験	臨床看護師 <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th>				
看護過程とは、看護理論と看護実践をつなぐものであり、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋とされ、系統的・網羅的な思考過程である。しかし、その看護過程を活用して看護を展開するためには、問題に気づく力、批判的思考や意思決定能力、創造的思考などの知的技能が必要となる。特に即興的な判断とアクションを求められる看護の現場では、「気づき」から「今何が起き、何が重要であるか」を判断しなければならない。それは、看護過程の系統的・網羅的な思考過程では困難であり、臨床判断モデルの活用となる。つまり対象に応じた看護の展開を行うためには、看護過程という思考過程と併せて臨床判断モデルの活用も重要になる。ここでは、まずは看護過程を使った看護の展開方法の基礎を学び、さらに状況に応じた看護を展開するための臨床判断について、学習を深め、問題解決能力を身につける。								
1. 看護実践における看護過程の意義・定義を説明できる。 2. 看護過程は立案プロセスと運用プロセスにより成り立ち、その構成要素について説明できる。 3. 看護過程と看護診断の関係を基に看護診断プロセスを活用して問題の妥当性を検証できる。 4. ロイ適応看護理論を使った看護過程の特徴を説明できる。 5. 事例に対し、ロイ適応看護理論を使った看護過程のプロセスを実施できる。 6. 臨床判断モデルの概要として、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を説明できる。 7. 看護記録の目的が説明できる。 8. 所定の形式に沿って、看護記録（看護診断・介入・経過記録）が書ける。								
1 「臨床判断モデル」と「看護過程」の関係について説明できる。 2 臨床判断モデルのプロセスから、何故「気づき」が重要であるか、どのような「気づき」が必要なのかを考察できる。 3 場面から、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を経験し、看護師にとって必要な「気づく」とは何かを考察できる。 4 NANDA-I看護診断を使って問題の妥当性を他者と検証し、適切な看護診断を提案できる。 5 ロイ適応看護理論に基づき、刺激を明確にすることが介入を具体的に提示できることを実感できる。 6 シミュレーションにおいて、臨床判断したこと、計画の修正追加したことを見護記録に記載することで、運用プロセスを実践できる。								
1. 自己の考えを言葉や文字で表現できる。 2. 他の意見を受容しつつ、積極的に質問や意見を伝えることができる。 3. 自分と他の者の「気づき」の違いを評価し、その違いに影響を与えている因子に対し解決策を相談できる。 4. メンバーと協力しながらグループワークに参加できる。 5. 積極的に文献を検索し活用できる。 6. 講義内の課題に自発的に取り組み、理解していく姿勢を示すことができる。 7. 理解が困難な状況が発生したとき、自ら指導を受ける行動がとれる。								
科目評価	事例②演習レポート（課題10） 課題1～9 提出状況 課題11	60% 20% 20%		合計100%				
テキスト	ロイ適応看護理論の理解と実践 NANDA-I看護診断 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護学技術 I	(医学書院) (医学書院) (医学書院)						
参考文献	アセスメントに自信がつく臨床推論入門 小澤知子 (メディカ出版) 看護過程と看護診断 古橋洋子 (医学書院) はじめて学ぶ看護過程 古橋洋子 (医学書院) 事例で分かる看護理論と看護過程 小田正枝 (熙林社)							
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項			
1	1. 看護を展開するために必要な道具 1) 看護過程 2) 看護過程と看護理論 2. ロイ適応看護理論と看護過程 1) ロイ看護理論の概要 2) ロイ看護理論に基づく看護過程	○			ロイ適応理論の復習をしておくこと 課題1 事例に関する学習 ①排泄のメカニズム（排便） ②肺炎とはどのような疾患か、そして肺炎の各症状の発生機序			
2	3) ロイ適応看護理論を基に看護過程を使って看護を展開 (1) 立案プロセスと記録様式（事例①を基に展開） ①行動のアセスメント・仮問題	○			課題2 事例①行動の分類・アセスメント			
3	②行動のアセスメント・仮問題	○			課題3 事例① 仮問題			
4	③行動のアセスメント・仮問題・関連図	○			課題4 事例① 関連図			
5	④関連図	○			課題5 刺激のアセスメント			
6	⑤刺激のアセスメント	○			課題6 看護診断			
7	⑥刺激のアセスメント	○			課題7 目標と介入（立案）			
8	⑦看護診断プロセス	○			課題10 事例②演習レポート（肺炎）			
9	⑧看護診断プロセス ⑨優先順位	○			課題8 経過記録 課題9 評価			
10	⑩目標（長期目標・短期目標）	○			課題11 演習ごとに課題を提示する。			
11	⑪目標と介入（立案）	○			アーツルームを予定、その他準備については事前に提示。			
12	(2) 事例②肺炎について	○						
13	(3) 運用プロセスと記録様式 ①介入（実践）と経過記録 ②評価	○						
14		○						
15		○						
16		○						
17	4. 看護過程と臨床判断 1) 看護実践で求められるもの 2) 臨床判断とは何か。 3) 臨床判断モデルの概要	○						
18	5. 事例展開シミュレーション (看護過程と臨床判断)	○						
19		○						
20		○						
21		○						
22		○						
23	まとめ	○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

## 基礎看護学

## 専門分野

授業科目	診療補助援助技術Ⅰ	講師	氏名	①有吉美里 ②桑原麻衣	開講年次 2年次 前期	単位・時間 1単位 30時間			
			所属	①病院 ②専任教員					
			実務経験	①皮膚・排泄ケア認定看護師 ②臨床看護師					
科目のねらい	治療には、身体侵襲や苦痛を伴うものが多い。ここでは特に治療のために必要な処置を理解し、対象者の侵襲や苦痛を最小限にした安全・安楽な診療の補助援助技術の基礎を学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 無菌操作の基本が実施できる。 2. 内科的ガウンテクニックの基本動作が実施できる。 3. 創傷の分類と治療過程について、説明できる。 4. 創傷の管理について説明できる。 5. 刨の保護について、包帯法も含めその種類と方法を説明できる。 6. ドレッシング剤の張り方・はがし方及び包帯法を実践できる。 7. 中央配管・酸素ボンベの取り扱い及び、酸素投与器具・吸入の種類と特徴を説明できる。 8. 酸素投与器具を適切に取り扱うことができる。 9. 口腔・鼻腔内及び気管内吸引の留意事項を説明できる。 10. モデル人形に対し、安全に口腔・鼻腔内及び気管内吸引が実施できる。 11. 体位、浣腸液の温度、挿入の長さを解剖学的根拠を説明できる。 12. モデル人形に対して浣腸液の注入ができる。 13. 導尿の目的と種類及び留意事項を説明できる。 14. モデル人形に対し、基礎的な無菌操作の基、安全に一時導尿及び膀胱留置カテーテルによる導尿が実施できる。 15. 経管栄養法について、目的とその留意事項を説明できる。 16. モデル人形に対し、経管栄養法における胃管チューブの挿入が適切に実施できる。 17. モデル人形に対し、経管栄養法における流動物の注入が適切に実施できる。								
思考・判断・表現	1. 苦痛のある処置に対して配慮した声かけができる。 2. 処置を受ける対象者の心情を考慮した援助を検討できる。 3. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。 4. 発達段階の異なる対象に対する治療処置技術の実施方法の選択を検討できる。 5. 様々な健康障害を想定し、対象に応じた治療処置技術の選択が検討できる。								
主体的学習態度	1. 人体の構造と機能を復習し、治療処置技術の根拠として活用できる。 2. 実技演習の事前準備が主体的に行動できる。 3. 教員に指導を受けるための主体的アプローチができる。								
科目評価	①定期試験（実技）100% ②定期試験（筆記）100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 (メディカ出版) 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (医学書院)								
参考文献	看護技術プラクティス (Gakken) 写真でわかる基礎看護技術1 アドバンス (インターメディカ)								
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項			
1	無菌操作	講義	演習	到達レベル	その他	講師			
2	搾子・手袋・滅菌パック	○	○	II		桑原麻衣			
3	ガウンテクニック	○	○	II					
4	創傷処置、褥瘡の基礎知識	○	○	II		有吉美里			
5	褥瘡処置		○	II					
6	包帯法・三角巾	○	○	II					
7	酸素吸入療法・吸入、吸引（口腔内・気管内）、罨法	○	○	II					
8	酸素吸入療法・吸入、吸引（口腔内・気管内）、罨法		○	II					
9	導尿・膀胱留置カテーテルの管理、浣腸・摘便	○		II		桑原麻衣			
10	浣腸・摘便	○	○	II					
11	導尿・膀胱留置カテーテル		○	II					
12									
13	経鼻経管栄養・胃チューブ挿入	○							
14	経鼻経管栄養・胃チューブ挿入		○	II					
15									
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 基礎看護学

## 専門分野

授業科目	診療補助援助技術Ⅱ	講師	氏名	①兼本恵美 ②内藤直美	開講年次	単位・時間			
			所属	①②専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間			
			実務経験	①②臨床看護師					
科目のねらい	治療には、身体侵襲や苦痛を伴うものが多い。ここでは特に治療のために必要な検査・与薬について理解させ、対象者の侵襲や苦痛を最小限にした安全・安楽な診療の補助援助技術の基礎を学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 検体の採取方法、留意点を説明できる。 2. 簡易血糖測定の的確な実施ができる。 3. 注射法の目的・方法・留意事項を説明できる。 4. モデル人形に対して、安全に筋肉内注射が実施できる。 5. モデル人形に対して、安全に採血が実施できる。 6. モデル人形に対して、安全に静脈内注射が実施できる。 7. 点滴静脈内注射の目的・留意事項を説明できる。 8. 中心静脈栄養法の目的・方法・留意事項を説明できる。 9. 点滴静脈内注射の準備・固定法と滴下調整ができる。 10. 輸液ポンプの取り扱いを説明できる。 11. 輸液療法中の日常生活援助が適切に実施できる。								
思考・判断・表現	1. 苦痛のある処置に対して配慮した声かけできる。 2. 処置を受ける対象者の心情を考慮した援助を検討できる。 3. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。 4. 発達段階の異なる対象に対する治療処置技術の実施方法の選択を検討できる。 5. 様々な健康障害を想定し、対象に応じた治療処置技術の選択が検討できる。								
主体的学習態度	1. 人体の構造と機能を復習し、治療処置技術の根柢として活用できる。 2. 実技演習の事前準備が主体的に行動できる。 3. 教員に指導を受けるための主体的アプローチができる。								
科目評価	①定期試験（実技）100% ②定期試験（筆記）100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版） 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術I（医学書院） 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護7技術II（医学書院）								
参考文献	看護技術プラクティス (Gakken) 写真でわかる臨床看護技術1 アドバンス（インターメディカ）								
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項			
		講義	演習	到達レベル	その他	講師			
1	検体検査の取り扱い(尿、血液等)	○	○	II		兼本恵美			
2	簡易血糖測定	○	○	II					
3	与薬・座薬	○							
4	注射法	○							
5	筋肉内注射		○	II					
6		○	II			内藤直美			
7	採血、静脈内注射	○	II						
8		○	II						
9	点滴静脈内注射の管理（ルート固定・滴下調整） 中心静脈栄養穿刺の介助、輸液ポンプ		○	II					
10	輸液療法：準備から滴下		○	II					
11									
12		○	○	II					
13	輸液療法中の日常生活援助の実際 更衣、移動の援助技術		○	II					
14			○	II					
15	放射線の被ばく防止策の実施 生体検査	○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 基礎看護学

### 専門分野

授業科目	看護研究	講師	氏名	戸田真理	開講年次 3年次 通年	単位・時間 1単位 45時間			
			所属	専任教員					
			実務経験	臨床看護師					
科目的ねらい	看護における研究の役割を理解し、研究の方法について基本的知識を学び、文献検索の重要性、看護研究における倫理的問題を理解する。								
到達目標									
知識・技術	1. 看護における研究の意義と役割について理解し、説明できる。 2. 研究の種類を4つ挙げ、それぞれについて特徴を理解し、説明できる。 3. 研究発表を通して研究の基礎的プロセスを学ぶ。 4. 看護における倫理的配慮について具体的に述べることができる。 5. 文章を論理的に構成し論文作成ができる。								
思考・判断・表現	1. 先行研究調べるために、ICTの基礎を活用した文献検索を実施できる。 2. 先行研究を読み、クリティイークすることができる。 3. 看護研究のプロセスを学び、系統立てることができる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究の成果を発表できる。								
主体的学習態度	1. グループ間で課題達成のための協力ができる。 2. 研究発表では積極的に意見交換ができる。								
科目評価	事前課題レポート10% クリティイークレポート20% 看護研究レポート及び発表70% (研究計画書及び発表中の態度はループリック評価) 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 (メディカ出版)								
参考文献	学生のためのわかりやすい研究の進め方 (照林社)								
回数	教育内容	教育方法 講義 ○ 演習 ○ その他	講師	関連科目	留意事項				
1	1. 看護における研究の課題 1) 研究とは何か 2) 研究における課題 3) 研究の目的 4) 看護研究における倫理的配慮	○ ○	戸田 真理	I 倫理学 CTの基礎 教育学 論理学 I (論理的思考) 論理学 II (批判的思考) 医療安全 専門看護学実習	世界で実施されている興味のある研究を調べておく 授業前後に資料を読み理解を深めておく  医療倫理についてGW				
2	2. 研究の種類 実験研究 調査研究 文献研究 事例研究 (ケーススタディ)	○ ○			情報科学室にてパソコン使用し文献検索を実施				
3	3. 研究の概観 1) 看護研究の課題と選択 2) 文献検索	○ ○			グループ各自で研究テーマに関連した先行文献を持参する				
4	4. 看護研究のクリティイーク 1) クリティイークの基準 概念枠組みと仮設の設定 2) 論文クリティイークの実施 5. 研究計画書とは	○			計画書は研究背景について先行文献を検索する。 情報科学室にてパソコン使用し文献検索を実施				
5	6. 研究計画書の記載	○			クラスで発表会を運営参会者は積極的に意見交換に望むこと				
6					ループリックで自己評価				
7	7. 看護研究の実際	○							
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20	8. 看護研究発表とまとめ	○							
21									
22									
23	9. 看護研究の振り返りと自己評価	○ ○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 地域・在宅看護論

(令和5年度 1年生用)

### 専門分野

授業科目	地域と暮らし	講師	氏名	藤本祥子	開講年次	単位・時間	
			所属	専任教員	1年次	1単位 30時間	
			実務経験	臨床看護師	前期		
科目的ねらい	福津市で暮らす人々の日々の生活とあらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象とした健康課題に気付き、「自助・互助・共助・公助」の実際を知り専門職の役割を考えることができる。						
到達目標							
知識・技術	1. 地域、生活をとらえ、周辺の地域の特性を知る。 2. 地域で暮らす人々の生活を知り、年代、あらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域の特性を述べることができる。 3. 地域の郷づくりの特徴を述べることができる。 4. 「自助・互助・共助・公助」の実際を説明できる。						
思考・判断・表現	1. 福津市の地域コミュニティの特性についてを、地域活動・インタビューを通して地域で暮らす人のライフヒストリー、生活状況を検討し事例発表する。 2. 地域活動を通して、関わる人々の生活上の問題点、家族の在り方について討議し自己の考えを再構成することができる。 3. 社会資源の現状評価、SDGsの視点で社会資源の創出をグループワークで述べることができる。						
主体的学習態度	1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。 3. 他者の意見を受け入れ、認めることができる。						
科目評価	地区踏査・地域活動のレポート評価60% (30%、30%) GW参加状況10% (減点方式) まとめレポート30%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)						
	参考文献 系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他			
1	地域でのコミュニティ SDGs オリエンテーション	○	○		藤本祥子	教科書：「地域療養を支えるケア」地域と生活を読んでおく	
2	地域でのコミュニティ (GW)	○				情報収集/地域活動について調査企画書提出し、アポイント取得	
3	地域でのコミュニティ (GW) 地区踏査/オリエンテーション	○				対話/まち歩き 実際に、地域に出て地域の人にインタビューしてみる *期間を指定し、その間に地区踏査を実施	
4	地区踏査	○				公衆衛生 文化人類学	社会資源：福津市で暮らす人々の社会資源について調べる
5		○	○				
6		○	○				
7		○	○				
8	地域で暮らす人々を取り巻く環境	○	○		公衆衛生 社会保障 健康教育	GW：現在の社会資源について現状を評価する。SDGsの視点で社会資源の創出を考える	
9	地域で暮らす人々を取り巻く環境	○					
10	SDGs 社会資源の評価 社会資源の創出	○					
11	SDGs 社会資源の評価 社会資源の創出	○			発達心理学 家族看護学 多言語コミュニケーション	地域に出て地域活動に参加 *夏季休業中に活動を実施する	
12	地域活動	○	○				
13	地域活動	○	○				
14	発表	○				グループで発表	
15	発表	○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

## 地域・在宅看護論

### 専門分野

授業科目	在宅看護総論	講師	氏名	安藤 真由美	開講年次	単位・時間			
			所属	事業所	2年次 前期～後期	1単位 30時間			
			実務経験	訪問看護師					
科目的ねらい	少子・超高齢化社会における在宅看護の対象を捉え、対象のニーズに対応した地域包括ケアシステムの仕組みを理解した上で療養者の安全、権利擁護活動を行う重要性を考え、看護師の役割を多職種連携・協働を通して考える。								
到達目標									
知識・技術	1. 世界での在宅看護の変遷を理解し、日本における在宅看護の変遷の違いを説明できる。 2. 在宅看護の必要性と制度の概要を説明できる。 3. 地域包括ケアシステムの仕組みでは常に地域で療養している人々とその家族が中心になることを説明できる。								
思考・判断・表現	1. 地域包括ケアシステムが構築されることにより人々の健康的な生活に与える影響を説明できる。 2. 訪問看護の現状と問題点、在宅で療養する看護の現状と問題点についてグループワークでまとめ発表できる。 3. 地域包括ケアシステムでの多職種の役割・看護師の役割について発表し学びを共有できる。 4. 療養者の安全を守る、権利擁護活動について看護師が果たす役割について説明することができる。								
主体的学習態度	1. 事前学習をして参加しグループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。								
科目評価	定期試験(筆記) 80% 演習参加状況10%、態度10% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術（メディカ出版）								
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論（医学書院）								
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項				
1	在宅看護の概念（1） ①在宅看護の対象と背景 ②国民の価値観 ③疾病がある療養者と家族、障害がある療養者と家族	○	安藤真由美	家族看護学 公衆衛生	人口減少と疾病構造の変化、家族の変化について事前に学習しておく。				
2	在宅看護の概念（2） ①在宅看護の歴史 ②日本の在宅看護の変遷 ③在宅看護（世界と日本の違い）	○		文化人類学	世界での在宅看護の歴史について事前に学習しておく。				
3	在宅看護の概念（3） ①訪問看護制度の創設と発展 ②地域での看護活動	○		社会福祉 社会保険 公衆衛生 健康教育	訪問看護ステーション創設の経緯について事前に学習しておく。				
4	発表				事前学習、講義を基に「訪問看護の現状と問題点」についてまとめ発表				
5	在宅療養者と家族の支援（1） ①在宅看護対象者	○		地域と暮らし 家族看護学	在宅で療養する療養者、家族の現状と問題について事前学習しておく				
6	②在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 ③在宅療養の場における家族のとらえ方 ④在宅療養者の家族への看護	○		地域と暮らし 家族看護学					
7	発表				事前学習、講義を基に「在宅で療養する家族の現状と問題点」について発表				
8	地域包括ケアシステムにおける在宅看護 ①療養の場の移行に伴う看護	○			地域包括ケアシステムの復習をしておく。				
9	②地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携（地域住民との連携） ③看護師が担うケースマネジメント ④地域ケア会議	○							
10	在宅看護における安全と健康危機管理 ①在宅での危機管理 ②日常生活における安全管理 ③災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理口	○							
11		○			在宅で暮らす療養者にとって、災害時に事前に準備、対応することを事前学習しておく。				
12	在宅看護における権利保障 ①権利擁護	○		倫理学 看護倫理 社会保障					
13	②日常生活自立支援事業 ③成年後見制度、オンブズマン制度	○							
14	発表				福津市で災害発生時、「在宅療養者に必要な対応」について事前学習、講義を基に発表				
15	まとめ	○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 地域・在宅看護論

専門分野

(令和5年度2年生用)

授業科目	在宅療養を支える技術	講師	氏名	①藤本洋子 ②西岡加代子 ③橋木喜美代	開講年次	単位・時間			
			所属	①②専任教員 ③訪問看護ステーション	2年次 後期	2単位 45時間			
			実務経験	①②臨床看護師 ③訪問看護師					
科目的ねらい	在宅療養の主体は療養者と家族であり、社会資源・多職種の支援を活用しながら日々暮らしている。専門職として私達は先ず、療養者と家族が在宅療養を決断した背景・思いを理解することが重要である。その上で在宅療養者の疾患・病期・生活状況をアセスメントし、在宅での生活者の視点に沿った在宅看護援助を検討しなければならない。その為、この授業では演習を通して在宅にある物品を活用した援助方法を検討する。更に療養者の状況に合わせた観察、緊急時の対処方法を身につけるための支援方法を習得する。								
到達目標									
知識・技術	1. 在宅看護における初回訪問時の目的および留意点を説明できる。 2. 医療処置を受けながら生活する療養者と家族への訪問看護の役割を説明できる。 3. 在宅で行われる医療処置について、看護のポイントが説明できる。								
思考・判断・表現	1. 療養者の生活に則した看護援助の工夫をグループワークを通して検討、実践することができる。 2. 信頼関係を構築するために接遇マナーが重要であることを演習を通して実践したことを基に説明できる。 3. 在宅で暮らす療養者、家族の思いを考え、述べることができる。 4. 在宅で会う事例を基に訪問看護師の視点、家族・介護力のアセスメント内容について検討し発表を通して提案できる。 5. 訪問看護でのバイタルサイン測定を実施し病院で行う違いに気付き説明できる。								
主体的学習態度	1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることが出来る。 2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。								
科目評価	定期試験 筆記100% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術（メディカ出版）								
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論（医学書院）								
回数	教育内容	講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項		
1	在宅における援助技術 (1) 初回訪問・食事のアセスメント	○			藤本洋子	文化人類学 多言語コミュニケーション 医療現場のコミュニケーション 在宅看護総論	学校指定のポロシャツ・ズボンで演習：教科書で初回訪問に必要なことを学び一般的な接遇マナーを復習し、実践が出来るようにイメージトレーニングしておく。		
2	在宅における援助技術 (2) 初回訪問		○			各専門看護学	在宅看護論実習で使用する記録を使ってアセスメントする。		
3	訪問時のアセスメント		○						
4	在宅での看護過程の特徴		○						
5	在宅看護介入 (1) 在宅療養移行期	○							
6	(2) 在宅療養安定期	○							
7	(3) 急性増悪期	○							
8	(4) 終末期（看取り期）	○							
9	事例検討：脊髄損傷 アセスメントの視点	○	○				GW：事例をグループワークで検討し「療養者及び家族が在宅療養を選択した理由」について発表		
10	データベース作成	○	○						
11	家族・介護力のアセスメント	○	○						
12	まとめ	○	○				発表		
13	在宅における援助技術 事例における日常生活援助の検討	○	○		西岡加代子		教科書で在宅での食事・排泄・清潔・移動について確認し、病院と在宅の違いについて考えておく。		
14	在宅における援助技術 検討内容について発表	○	○						
15	ベット上で行う洗濯の援助：物品の工夫	○							
16	ベット上、入浴室で行う足浴の援助：物品の工夫 スライドシートを使った移乗		○				学校指定のポロシャツ・ズボンで演習：療養生活を支える援助技術で学習した援助技術を病院ではなく、在宅にある物品や身近にある物を利用して工夫して実施する。グループで援助を検討し実践する。		
17	訪問看護におけるバイタル測定 医療処置 コミュニケーション 教育指導の実際（臨床との違い）	○	○				学校指定のポロシャツ・ズボンで演習：診療補助援助技術を復習しておく（アネロイド血圧計）		
18	①バイタル測定 ②服薬管理・指導方法	○	○						
19	③呼吸管理、人工呼吸器 気管カニューレ 在宅酸素療法	○							
20	④カテーテル管理、膀胱留置カテーテル 持続皮下注射	○							
21	⑤褥瘡予防・処置 排泄の援助、ストマ管理	○							
22	⑥栄養管理、経管栄養法、胃ろう・注腸 在宅中心静脈栄養法	○							
23	⑦重症患児の在宅療養における援助技術 ⑧在宅ターミナル期の援助	○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 地域・在宅看護論

### 専門分野

授業科目	暮らしを支える	講師	氏名	①藤本祥子 ②石出昌子 ③山本裕子	開講年次	単位・時間			
			所属	①専任教員 ②地域包括支援センター ③保健所					
			実務経験	①臨床看護師 ②主任介護支援専門員 看護師 ③保健師					
科目的 ねらい	在宅看護における看護の展開は、在宅医療の対象である療養者、家族の生活、様々な価値観を尊重した長期的な視点での看護実践である。対象者が疾患や障害によって変化してきた生活を考え、在宅医療チームの看護専門職として、療養者の疾患、病期そして療養者の強み、家族の介護力をアセスメントし、多職種と連携し多角的に対象の生活上のニーズを捉え、社会資源を活用した対象のQOL維持向上について理解を深める。								
到達目標									
知識・技術	1. 常に療養者と家族の生活、様々な価値観を尊重した長期的な視点を持って検討できる。 2. 療養者の疾患、病期、能力、家族介護力について説明できる。 3. 家庭訪問を通して地域の方と関わり、コミュニケーションを取りながらその方が暮らしてきた時代、背景について知り関わりの中でその方が現在抱える生活上の問題点について考え発表できる。 4. 地域の保険医療活動における行政の役割を知り地域特性を活かした社会資源活用の提案ができる。								
思考・判断・表現	1. 地域で暮らす高齢者の生活を知り、全体像から家族アセスメントを行い療養生活を継続するための支援が提案できる。 2. 地域で暮らす療養者、家族との関わりをエコマップ、円環パターンを使って解釈し療養者の強みを活かした支援を発表を通して提案できる。 3. 療養者、家族が在宅での生活を望む理由を列挙し理由を検討することができる。								
主体的学習態度	1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 2. 地域活動、高齢者の家庭訪問で対象に適した相手を尊重した態度で関わることができる 3. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。								
科目評価	小テスト(50%:10点×5回) ルーブリック評価によるレポート評価(10%×2) リアクションシートによる評価(20%) 出席・態度(10%) 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術(メディカ出版)								
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)								
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項			
		講義	演習	その他			講師		
1	暮らしを支える オリエンテーション 家庭訪問についてのオリエンテーション	○	○		藤本祥子	地域で暮らす高齢者の理解に繋がる観察について事前に学習しておく			
2	家庭訪問：地域の一人暮らしの自宅へ訪問			○		藤本祥子	地域の高齢者（一人暮らし）の家庭訪問を行う 1グループ:2~3人		
3		○		○			地域で暮らす療養者、家族との関わりをエコマップ、円環パターンを使って示し、家族アセスメントを行い看護展開し看護計画を立案し発表する。		
4	発表	○	○				2年次の事例検討：脊髄損傷患者（成人生期男性）の資料を持参し療養者が抱える問題、家族状況を基に社会資源を考え、看護介入検討		
5		○	○				福津市での社会資源の活用について検討		
6	事例検討 療養者価値観、障害者総合支援法 脊髄損傷があり在宅で暮らす療養者	○	○				地域包括支援センターの役割、事例を通して社会資源について検討する		
7		○	○				地域活動演習：模擬ケア会議 地域活動演習：模擬ケア会議		
8	介入の検討：地域における社会資源の活用	○	○			石出昌子	宗像・遠賀社会保健福祉環境事務所		
9	地域共生社会：福津市の地域特性を活かした地域包括支援センターの役割	○					対象が、小児であることを考え、発達段階に応じたアセスメント、社会資源を検討する		
10		○					緊急時の対応について、自治体での違いも検討する。		
11	地域包括ケアシステム：模擬ケア会議	○							
12		○							
13	行政の役割：地域連携、保健所の役割	○				山本裕子			
14	事例検討 脳性麻痺の児と生活する家族アセスメント、社会資源	○							
15		○	○						
16		○	○						
17	事例検討 心疾患を持って暮らす高齢者の家族アセスメント、緊急時の対応について（心不全）	○	○		藤本祥子				
18		○	○						
19	事例検討 難病を抱えて暮らす療養者の価値観、社会資源、家族アセスメント、緊急時、災害時の対応について（ALS）	○	○						
20		○	○						
21	発表	○	○			事例検討の介入計画を発表			
22	発表	○	○			ALS、心不全、脳性麻痺			
23	発表/まとめ	○	○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

成人看護学

専門分野

授業科目	成人看護学総論	講師	氏名	長谷川京子	開講年次	単位・時間			
			所属	専任教員	1年次 前～後期	1単位 30時間			
			実務経験	臨床看護師					
科目的ねらい	成人期は青年期・壮年期・向老期と人生で最も長い期間社会的役割を担う時期であり、その役割の変化に適応していく、自立し自律した存在である。成人看護学総論では成人を身体的・心理的・社会的側面から成長発達する存在として捉えると同時に、成人の健康と健康生活の特徴を捉えていく。成年期の生活習慣が壮年期以降の健康状態に大きく影響することを理解し、成人の健康生活を育む看護活動や成人の健康が破綻したときの看護について学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 成人期の各期の特徴と発達課題を説明できる。 2. 成人の生活と健康の説明できる。								
思考・判断・表現	1. 成人における健康の保持・増進や疾病の予防について考察できる。 2. 成人を取り巻く様々な要因に関連した健康障害について言語化できる。								
主体的学習態度	1. 自己を取り巻く健康に関する環境について考えることができる。								
科目評価	①定期試験(筆記) 80% ②課題(レポート含) 20% 合計100%								
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論(医学書院)								
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学 ① 成人看護学概論(メディカ出版)								
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項				
		講義 演習 その他							
1	I 成人の生活と健康 1 対象の理解：大人になること・大人であること 2 対象の生活：働いて生活を営むこと	○			事前課題① 期の発達 親密性の獲得 成年期にある人の理解 (レビンソンの発達理論)				
2	II 生活と健康 1 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 2 生活と健康を守り育むシステム	○							
3	III 成人への看護のアプローチの基本 1 アンドラゴジー 2 コンプライアンス・アドヒアランス 3 エンパワメント 4 自己効力感 5 チームアプローチ	○							
4	IV 健康を脅かす要因と看護 1 生活習慣に起因するもの 2 職業環境に起因するもの	○							
5									
6	V・青年期の特徴 1 青年期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴 1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護	○			事前課題② 「フィンクの危機モデル」				
7	5 学習の特徴と理解	○							
8	VI・壮年期の特徴 1 壮年期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴 1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護	○			事前課題③ 「生活習慣病について」				
9	5 学習の特徴と理解	○							
10	VII・向老期の特徴 1 向老期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴 1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護	○			事前課題④ 「健康段階とは」				
11	5 学習の特徴と理解	○							
12	VIII 「成年期を健やかに過ごす」を考える	○			*今までの学習をもとに町づくり				
13			○						
14	IX・宗看タウン作りと発表		○						
15			○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

成人看護学

専門分野

授業科目	セルフケア再獲得に向けた看護	講師	氏名	①権田園美	開講年次	単位・時間			
			所属	①専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間			
			実務経験	①臨床看護師					
科目的ねらい	成人期は多様な価値観・生き方や社会的役割を持つ。その成人期の対象が生命の危機状態から脱し、不慮の事故や疾病により何らかの機能障害を負い、援助を必要とするときにその対象を疾病や障害とともに生きる「生活者」として捉え、「その人らしく生きること」を支援するために、社会復帰に向けた看護の重要性を学ぶ。また、本来高いセルフケア能力を持つ成人が再びその人らしく生活するため、セルフマネジメント力を身に付けられる知識・技術を習得し、自己コントロールができるように働きかけていく看護の重要性を理解する。								
到達目標									
知識・技術	1. 慢性期・回復期の健康問題をもつ対象と家族の特徴を説明できる。 2. 成人期にある慢性期・回復期の対象や家族に必要とされる看護問題を立案できる。 3. 成人期にある慢性期・回復期の対象や家族に対する看護援助を科学的根拠をもとに実践できる。								
思考・判断・表現	1. 対象に必要なセルフマネジメントを考えることができる。 2. セルフケア再獲得方法を対象や家族に提案できる。 3. 対象に関連する社会資源を対象と家族に提案できる。 4. 日常生活で予測される問題の解決方法を対象や家族に提案できる。 5. 対象や家族を取り巻く倫理的問題について述べることができる。								
主体的学習態度	1. 対象や家族に行う教育方法を、文献検索を行うことができる。 2. 様々な社会資源について、文献検索することができる。 3. 患者や家族に必要な看護援助について、グループワークで積極的に発言することができる。 4. 患者や家族に必要な看護援助を繰り返し練習することができる。								
科目評価	定期試験（筆記）20% 課題（レポート含）80% 合計100%								
テキスト	ナーシンググラフィカ 成人看護学①成人看護学概論 ナーシンググラフィカ 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 ナーシンググラフィカ 成人看護学③セルフマネジメント ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤リハビリテーション看護 ロイ適応看護理論の理解と実践 NANDA-I看護診断								
(メディカ出版)	(メディカ出版)	(メディカ出版)	(医学書院)						
参考文献									
回数	教育内容		教育方法		講師	関連科目			
	講義	演習	その他						
1	1・成人各期から見た情報整理の視点（GK）	○		○	権田園美	「成人看護学総論」「領域横断」で習得した「健常観」を関連づけて予習する。 予習においては、テキストを熟読、関連動画を視聴し理解できない箇所を明確にする。 演習では看護実践を展開していくため、演習中に追加される看護情報とともに予習・復習を行うこと。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。  事前課題①：「アンドラゴジー」 (第1回目までの事前学習)  事前課題②：クローン病 (第3回目までの事前学習)  事前課題③：乳がん (第6回目までの事前学習)  事前課題④：関節リウマチ (第9回目までの事前学習)  事前課題⑤：大腸癌 (第12回目までの事前学習)  演習白衣使用			
2	2・成人各期から見た情報整理の視点（発表）	○		○					
3	3・対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践								
4	①青年期にクローン病を発症し、再燃・寛解を繰り返す対象と家族への看護実践 ・再燃期における全身状態の観察 ・寛解期における栄養指導、生活指導		○						
5									
6	3・対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ②壮年期に乳がんを発症し化学療法を行なながら母親役割のある対象と家族への看護実践 ・化学療法を必要とする対象と家族への看護実践 ・乳がん手術後のリハビリテーション								
7			○						
8									
9	3・対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ③長期にわたり関節リウマチで療養している向老期の対象と家族への看護実践 ・日常生活における生活指導 ・加齢による心身の衰退を受け入れながらのセルフケア								
10			○						
11									
12	3・対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ④大腸がんで人工肛門を造設した向老期の対象と家族への看護実践 ・ストーマ管理、指導 ・社会資源の活用、指導								
13			○						
14									
15	事例の看護実践の発表			○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

成人看護学									
専門分野									
授業科目	健康危機状況における看護	講師	氏名	①村瀬里美 ②田川えりか ③村山優子 ④長谷川杏子  ①②③病院 ④専任教員  実務経験 臨床看護師	開講年次 2年次 前期～後期	単位・時間 1単位 30時間			
			所属						
			実務経験						
科目的ねらい	成人期は多様な価値観・生き方や社会的役割を持つ。重篤な状態にある成人期の身体的・心理的・社会的影响やその家族への影响を理解し、重症化の回避と生命危機からの早期回復のための看護実践を学ぶ。また、手術を必要とする対象とその家族への手術療法の理解や意思決定の援助を支える技術を学ぶ。	到達目標							
知識・技術	1. 成人期にある対象や家族を対象とした急性期看護の特徴を説明できる。 2. 急性期における援助について科学的根拠をもとに実践できる。 3. 成人期にある対象や家族を対象とした周手術期看護の特徴を説明できる。 4. 術後の合併症の予防についてアセスメントし実践できる。 5. 成人各期の身体の回復過程を説明できる。 6. 対象に応じた観察項目を理解し異常の早期発見について考えることができる。								
思考・判断・表現	1. 急性期の特徴を理解し、学んだ知識・技術をもとに対象に応じた看護計画を立案できる。 2. 立案した看護計画を用いて必要な援助をシミュレーションで実践できる。 3. 実践した援助を振り返り評価できる。 4. 急性期の治療を終え、今後の生活変容について考えることができる。								
主体的学習態度	1. グループ間で協力的な行動が取れる。 2. 手術が及ぼす身体の機能回復の段階における日常生活の進め方について考えることができる。								
科目評価	①定期試験(筆記) 60% ②課題(レポート含) 40% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状態/セルフケアの再獲得 (メディカ出版)								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項			
		講義	演習						
1	1. 健康危機状況にある成人の理解 ①健康危機状況にある成人を理解する視点 ②健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足 ③健康危機状況と看護の特徴 ④健康危機状況における看護の苦悩と支え合い 2. 健康危機状況における看護の実際	○		長谷川杏子	基礎看護学 成人看護学概論 病理学緒論 臨床薬理学 全ての病を見る からだの構造 からだの機能	「成人看護学概論」で習得した「健康観」と関連づけて予習する。予習においては、テキストを熟読し、理解できない箇所を明確にする。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。 事前課題①危機理論 (第1回目までの事前課題)			
2	2. 意識障害の観察（青年期）シミュレーション	○							
3	3. 意識障害の観察（高齢期） シミュレーション	○							
4	4. 青年期の交通外傷で健康危機（外傷）にある対象と家族の看護 (急性期～周術期)	○							
5	5. 青年期の交通外傷で健康危機（外傷）にある対象と家族の看護実践 ①輸血時の看護の実際 ②MRI検査時の看護		○			事前課題②術後合併症 (第4回目までの事前課題) 事前課題③骨盤骨折 (第5回目までの事前課題)			
6	6. 壮年期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護 (急性期～周術期)	○							
7	6. 壮年期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ①心電カテーテル検査時の看護の実際 ②心電図モニター管理の実際		○						
8	7. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護 (急性期～周術期)	○							
9	7. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ①バイパス術後の気管内挿管中の気管内吸引 ②気管内挿管患者の口腔ケア		○						
10	7. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ③術後当日、ドレーン管理の場面		○						
11	7. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ④術後3日目、全身観察の場面		○						
12	7. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ⑤術後5日目、基礎疾患が影響する治療過程		○						
13	8. 青年期の交通外傷で健康危機（外傷）にある対象と家族の看護実践 ①術後2日目、創部保護の場面		○						
14	9. 青年期の交通外傷で健康危機（外傷）にある対象と家族の看護実践 ②術後3日目、呼吸困難を訴える場面		○						
15	事例の看護実践の発表			○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

成人看護学

専門分野

授業科目	人生の最期を支える看護	講師	氏名	①長野二郎 ②本田照子 ③喜多村健 ④百崎真由美 ⑤長谷川杏子	開講年次 2年次 後期	単位・時間 1単位 20時間
			所属	①～④病院 ⑤専任教員		
			実務経験	①臨床看護師 ②がん看護専門看護師 ③がん放射線療法認定看護師 ④緩和ケア認定看護師 ⑤臨床看護師		

科目的 ねらい	わが国における死因の第1位は癌疾患である。ここでは様々な状況の下に治療困難で、回復の見込みがないと診断された患者のうち、癌疾患により終末期を迎えている成人の看護について理解する。特に個人の権利の尊重と生命の尊厳を中心軸に、現代の癌医療の動向と現状を踏まえながら「告知」や「緩和ケア」の実際と看護の役割を理解する。
------------	--

到達目標

知識・技術	1. 終末期にある成人の患者の特徴を説明できる。 2. 終末期のさまざまな場面のケアについて説明できる。 3. 臨死期の看護としてエンゼルケアが実施できる。 4. 緩和ケアにおける生命倫理について説明できる。 5. 遺族に対するグリーフケアについて説明できる。
思考・判断・表現	1. 終末期の様々な場面の看護実践を考えることができる。 2. 終末期にある患者・家族の思いを感じることができる。
主体的学習態度	1. 多様な価値観について知り、自己の死生観について考えを述べることができる。
科目評価	①定期試験（筆記）80% ②課題（レポート含）20% 合計100%
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア（メディカ出版）
参考文献	

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	I. 終末期にある成人の特徴 1. 終末期とは 2. 意思決定とコミュニケーション 3. 緩和ケアと生命倫理	○			長谷川杏子	看護学へようこそ 成人看護学総論 倫理学 在宅看護総論 高齢者看護へようこそ 看護倫理	「成人看護学概論」で習得した「健康観」と関連づけて予習する。予習においては、テキストを熟読し、理解できない箇所を明確にする。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。 事前課題①「倫理原則について」 (第1回目までの事前課題)
2	II. 家族ケア 家族の意思決定 悲嘆と遺族ケア	○					
3		○					
4	III. がん患者の治療と看護 1. 身体症状 ①疼痛の治療と看護 ②鎮痛薬の投与経路 2. 精神症状 3. 社会的ケア 4. スピリチュアルケア	○			本田照子	事前課題② 「化学療法・放射線療法について」 (第5回目までの事前課題)	
5	IV. 化学療法を受ける患者の看護	○					
6	V. 放射線療法を受ける患者の看護	○					
7	VI. 非がん疾患のケア	○			喜多村健	事前課題③「人生最期の時を支える看護」 (第8回目までの事前課題)	
8	VII. 臨死期のケア 1. 臨死期の身体変化 2. 遺族に対するグリーフケア	○					
9	VIII. 臨死期のケア 3. エンゼルケアケア	○					
10	「死生観」についてグループワークを行い発表	○		○	長谷川杏子	事前課題④「エンゼルケアの手順書」 (第9回目までの事前課題)  演習時は白衣を使用	

備考 臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。

## 老年看護学

専門分野		(令和5年度 1年生用)			
授業科目	高齢者看護へようこそ	講師	氏名	兼本 恵美	開講年次
			所属	専任教員	1年次 前期～後期
科目的ねらい	今後も高齢化はさらに進み、老年看護学の果たす役割はますます大きくなっている。ここでは老年期の理解、高齢者看護の基本、ヘルスプロモーション、高齢者の日常生活の実際についての考え方を中心に学ぶ。学生のみならず教員も自身で経験していない年齢の人を対象とした看護であるため高齢者の疑似体験や高齢者へのインタビューを通じ、それらの理解を深め、看護を実践する基礎的能力を養う。また、地域で生活する高齢者の現状と課題を知り、社会貢献活動に繋げる。	到達目標			
知識・技術	1. 高齢者のQOLを理解し、QOLを向上させる関わりについて説明できる。 2. 高齢者に関する身体的・精神的・社会的な特徴について説明できる。 3. 高齢者看護の倫理と自己決定の支援について説明できる。 4. 高齢者に対する虐待と実態とその背景、対応の必要性と方法を説明できる。 5. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性について説明できる。 6. 高齢者を看護する専門職に必要な態度を説明できる。				
思考・判断・表現	1. 事例を通じ、介護予防（転倒予防、認知症予防）プログラムを考えることができる。 2. 事例を通じ、高齢者看護におけるチームアプローチを考えることができる。 3. 高齢者とのコミュニケーションについてロールプレイで気をつけることを考えることができる。 4. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化による生活への影響を考えることができる。				
主体的学習態度	1. 高齢者の生活史や地域で生活する高齢者の現状を事前に調べ、まとめることができる。 2. 高齢者の定義や人口の高齢化、死亡率・死因について復習できる。 3. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら活発な意見交換をすることができる。 4. ロールプレイの事例の役割を演じることができます。				
科目評価	定期（筆記）試験80% 課題レポート20% 合計100%				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 （メディカ出版）				
参考文献	系統看護学講座 老年看護学（医学書院） 高齢者白書（厚生労働統計協会）				
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項
1	1. 生活史を通じた理解 1) 老年期の発達課題 2) 腹痛体験 3) 高齢者の多様性	○ 講義 演習 その他	文化人類学 医療人類学	講義前に身近な高齢者と触れ合っておきましょう。	
2	1. 高齢者の健康 1) 健康維持・増進の意義 2) 健康の目標 3) 健康状況のアセスメント 4) 自立を妨げる要因 5) 介護予防	○ 講義 演習 その他	公衆衛生		
3	1. 高齢者看護の基本 1) 理論 2) 倫理	○ 講義 演習 その他	倫理学		
4	高齢者疑似体験	○ 講義 演習 その他	からだの構造 からだの機能 日常生活から見る からだ	アーツルーム 体操服	
5					
6	1. 加齢の変化 1) 身体機能の生理的変化 2) 心理・精神機能の変化 3) 社会的機能の変化	○ 講義 演習 その他	からだの構造 からだの機能 日常生活から見る からだ		
7	2. 高齢者に対するフィジカルアセスメント 3. 高齢者によくみられる疾患	○ 講義 演習 その他			
8	1. 高齢者のヘルスプロモーション 1) 介護予防 2) 転倒予防 3) 認知症予防 2. 高齢者のリスクマネジメント	○ 講義 演習 その他	医療安全 フィジカルアセスメント	グループワーク 介護・転倒・認知症予防について考える	
9					
10	1. 高齢者のコミュニケーション 1) 聴覚障害 2) 視覚障害	○ 講義 演習 その他	医療現場のコミュニケーション	ロールプレイ (アーツルーム)	
11					
12	コミュニケーションの実践	○ 講義 演習 その他	健康教育	グループワーク	
13	事例検討「高齢者看護におけるチームアプローチ」	○ 講義 演習 その他			
14	1. 高齢者の生活支える制度 1) 高齢者医療制度 2) 介護保険制度 3) 地域包括ケアシステム	○ 講義 演習 その他	社会福祉 地域生活支援	2年次の老年施設実習に向けての基礎知識を養いましょう。	
15	1. 終末期看護	○ 講義 演習 その他			
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。				

老年看護學

専門分野

授業科目	認知症看護の実践	講師	氏名	①兼本恵美 ②山口幸子	開講年次	単位・時間
			所属	①専任教員 ②病院	2年次 前～後期	1単位 30時間
			実務経験	②臨床看護師		
科目的 ねらい	日本では今後も認知症高齢者の増加が見込まれている。認知症高齢者の看護は、人の尊厳や倫理的課題、本人が意思を十分に伝えられないときのコミュニケーション方法や情報の把握、自己決定など、より深い知識と理解が必要となる。認知症高齢者の思いを反映したケアを行なうために、ユーマニチュードやバーソン・センタード・ケアについての理解を深め、看護師として、また地域の一員として認知症ケアを実践できる基礎的能力を養う。また、認知症と関連して臨床場面で看護が困難とされているうつ病やせん妄の理解も深める。					
到達目標						
知識・技術	1. 認知症の症状とそのケアが説明できる。 2. 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本を理解し、ロールプレイを通じ実践することができる。 3. 認知症高齢者とその家族への支援体制を説明できる。 4. 認知症高齢者の人権と権利擁護を説明できる。 5. 高齢者におけるうつ病の要因と特徴を説明できる。 6. 高齢者におけるせん妄の特徴と要因を説明できる。					
思考・判断・表現	1. 事例を通して、在宅での生活も視野に入れ認知症高齢者の看護を検討することができる。 2. 地域で生活する認知症高齢者を支えるための課題を明確にし、地域貢献活動を考えることができる。 3. 高齢者におけるうつ病のアセスメントをし、看護を考えることができる。 4. 高齢者におけるせん妄の予防策、アセスメント、発症時の援助を考えることができる。					
主体的学習態度	1. 地域で生活する認知症高齢者に開心を持ち、様々な資料を活用しまとめることができる。 2. 認知症の病態、症状、検査、治療について復習することができる。 3. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら意見交換をすることができる。 4. ロールプレイで、事例の役割を演じることができます。					
科目評価	定期(筆記)試験50% ロールプレイ20% 課題レポート30% 合計100%					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学②(メディカ出版)					
参考文献						
回数	教育内容		教育方法	講師	関連科目	留意事項
			講義 演習 その他			
1	地域で生活する認知症高齢者とその支援体制		○	兼本恵美	文化人類学 高齢者看護へようこそ	地域で生活する認知症高齢者を調べておく。
2	認知症サポーター養成講座		○	山口幸子		福津市健康福祉部 高齢者サービス課高齢者福祉係による講座
3	1. パーソン・センタード・ケア 2. 認知症の症状とそのケア	○		山口幸子	体の調節と神経の病を見る	グループワークを行いながら認知症の症状とそのケアについて考える。
4	1) 短期記憶障害とその援助 2) 見当識障害とその援助 3) 失語、失行、失認とその援助 4) 術行機能障害とその援助 5) 注意障害とその援助	○	○	山口幸子		
5	認知症の症状とそのケアの実践	○		兼本恵美	放養生活援助技術Ⅰ 療養生活援助技術Ⅱ	アーツルーム、白衣よく見られる場面の事例とともにロールプレイを行う。
6	(食事介助、更衣援助、徘徊時の援助など)					
7	1. 認知症の行動・心理症状とケア 2. 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 1) ユーマニチュード	○		山口幸子	体の調節と神経の病を見る 医療現場のコミュニケーション発達心理学	
8	1. 認知症の療法的アプローチ 2. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム 3. 認知症高齢者の人権と権利擁護	○		山口幸子	心理学 家族看護学 倫理学 看護倫理	事例に必要な看護、支援についてグループワークをし、発表会の準備を行う。活用できる社会資源も検討する。
9	認知症高齢者の事例検討	○		兼本恵美	社会福祉 地域生活支援 社会保障 公衆衛生 フィジカルアセスメント	事例に必要な看護についてグループワークをし、発表会の準備を行う。活用できる社会資源も検討する。
10						課題レポート提出(認知症高齢者の事例検討)
11	認知症高齢者の事例検討発表会		○	山口幸子	こころの病を見る	
12	高齢者のうつ病 1) うつ病の背景と特徴 2) 看護のポイント 高齢者のせん妄 1) せん妄を引き起こす要因とアセスメント 2) せん妄の予防 3) せん妄を発症した高齢者の援助	○		山口幸子		事例に必要な看護についてグループワークをし、発表会の準備を行う。
13	高齢者のせん妄の事例検討	○		兼本恵美		レポート課題提出(高齢者のせん妄の事例検討)
14	高齢者のせん妄の事例検討発表会		○			
15	認知症高齢者を支える地域貢献活動を考える	○		文化人類学		
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。					

## 老年看護学

## 専門分野

授業科目	高齢者看護の実践	講師	氏名	①桑原麻衣 ②島居彩香	開講年次	単位・時間					
			所属	①専任教員 ②病院	2年次 前～後期	1 単位 30時間					
			実務経験	①臨床看護師 ②摂食嚥下障害 看護認定看護師							
科目のねらい	高齢者の生活では、加齢の変化と、さまざまな疾患や薬剤による影響、環境から起こる変化が重なって起こる。医療体制が病院から地域へシフトしていくことを考えると、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能の視点をもった看護を実践していくことが必要である。高齢者の生活を支える視点の上に、高齢者に起こりがちな身体症状や、疾患・障害をもつ高齢者に対し、生活機能の視点からどのようなケアが実践されればよいかを考え、その人らしさを尊重するという目標志向型思考に沿って、健康課題の抽出から実践をする基礎的能力を養う。										
到達目標											
知識・技術	1. 加齢に伴って生じる食生活の変化に対するアセスメントと健康的な食生活のためのセルフケア支援方法を説明できる。 2. 加齢に伴って起こりやすい排泄の機能に関する障害のアセスメントとセルフケア支援方法を説明できる。 3. 高齢者のオムツ交換、口腔ケア（義歯の清潔）が実施できる。 4. 高齢者の清潔に関するアセスメントとセルフケア支援方法を説明できる。 5. 高齢者の活動と休息の特徴と睡眠の特徴を理解し、アセスメントと支援方法を説明できる。										
思考・判断・表現	1. 高齢者の脱水、低栄養のアセスメントをし、看護を考えることができる。 2. 尿失禁、便秘・下痢がある人のアセスメントをし、援助方法を考えることができる。 3. 便失禁にてリネンを汚染した時のオムツ交換とリネン交換を清潔・不潔と考えながら実施できる。 4. 痒痒、痛みがある人のアセスメントをし、ケアを考えることができる。 5. 高齢者の感染予防と感染症の看護を考えることができる。 6. 高齢者の視覚障害、聽覚障害が日常生活に与える影響を考えることができる。 7. 事例を通じ、在宅での生活を視野に入れた看護を考えることができる。 8. 不眠に対するケアを必要としている人のアセスメントとをし、援助方法を考えることができる。										
主体的学習態度	1. 加齢の変化を復習することができる。 2. 様々な資料を活用し、看護を展開することができる。 3. オムツ交換、口腔ケアの方法、留意点を学習し実技練習することができる。 4. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら活発な意見交換をすることができる。										
科目評価	定期（筆記）試験50% レポート課題30% 単元別試験20% 合計100%										
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 （メディカ出版）										
参考文献	生活機能からみた老年看護過程（医学書院） NANDA-I看護診断 定義と分類（医学書院）										
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項					
		講義	演習その他								
1	事例患者の情報収集 I	○		桑原麻衣		単元別試験：加齢に伴う身体機能の生理的変化 事例患者に必要な情報をグループワークにて検討する					
2	事例患者の情報収集 II	○		桑原麻衣		アーツルーム、白衣 患者役教員より情報収集を行う。					
3	1. 食生活を支える看護 1) 高齢者にとっての食事の意味、特徴 2) 脱水 3) 摂食嚥下障害 4) 低栄養	○		島居彩香							
4	排泄を支える看護	○		桑原麻衣	体の構造 体の機能 I 日常生活からみる体 療養生活援助技術 II 看護過程 暮らしを支える	加齢による排尿、排便の変化とその看護について事前に学習しておくこと。 排泄を支える看護について個人で調べたものをもとにグループワークを行う。					
5	発表会		○	桑原麻衣							
6	オムツ交換、口腔ケア（義歯の清潔）の実践	○		桑原麻衣		アーツルーム、白衣					
7	清潔、活動と休息を支える看護 (入浴後の外用薬投与など)	○		桑原麻衣		高齢者の清潔保持に影響するものの活動と休息に影響を与える要因とその看護について事前に学習しておく。 清潔、活動と休息を支える看護について個人で調べたものをもとにグループワークを行う。					
8	発表会		○	桑原麻衣							
9	事例患者の看護の展開	○				事例検討（ICFに沿って看護を展開する。）					
10											
11											
12											
13											
14	課題レポート提出：事例の看護過程										
15	備考 臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。										

## 小児看護学

### 専門分野

授業科目	小児の発達と看護	講師	氏名	①田中千尋 ②梶原陽子	開講年次 1年次 後期	単位時間 2単位 45時間			
			所属	①専任教員 ②病院					
			実務経験	①臨床看護師 ②小児看護専門看護師					
科目のねらい	子どもは常に成長・発達する過程にあり、一人の人間として尊重される存在である。小児看護は、新生児期から思春期までの子どもとその家族を対象に健康維持・増進を支援する。子どもの特性や社会環境による影響を理解し、子どもの健やかな成長・発達を支援する小児看護を学ぶ。								
到達目標									
知識技術	1. 子どもの身体的、認知的、社会的成長・発達の過程を説明できる。 2. 発達に応じた基本的生活習慣の自立に向けた援助ができる。 3. 子どもの健康を守るうえで行われている政策や法律について説明できる。								
思考判断表現	1. 子どもの発育を評価することができる。 2. 健康障害を持つ子どもと家族に必要な看護援助を述べることができる。 3. 子どものおこりやすい健康問題に対して、予防する方法を提案できる。 4. 子どもの取り巻く環境を踏まえ、子育て支援や小児医療の課題や今後の在り方について考察できる。								
主体的学習態度	1. 子どもの人権を尊重した言動・態度ができる。 2. 主体的に学習し、自分の子どもも親、小児看護学における看護観を述べることができる。 3. 小児医療における倫理について述べることができる。								
科目評価	①定期試験（筆記）80% レポート20% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 (メディカ出版)								
参考文献	系統看護学講座 専門分野 II ①小児看護学概論小児臨床看護総論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)								
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項				
		講義 演習 その他							
1	小児看護の特徴と理念、子どもの権利、小児看護専門看護師の役割	○	田中千尋	倫理学 心理学 発達心理学 教育学 療養生活援助技術 I・II からだの構造 からだの機能 生命に必要なエネルギー 子どもの病を見る 診療補助援助技術 I・II 病気と共に生きていく人の看護 健康教育 社会福祉	レポート① 子どもの成長発達と看護 子どもの養育援助技術 (食事、排泄、睡眠、更衣、清潔)				
2	小児の安心・安全な環境の調整	○							
3	子どものコミュニケーションと遊び	○							
4	養育援助技術	○							
5	食事(調乳・離乳食)とオムツ交換、更衣、歯磨き	○							
6	乳幼児健診(身体発育、発達の評価)	○							
7	小児予防接種	○							
8	処置に伴うプレバレーション	○ ○							
9	子どもによくられる事故と対策	○							
10	誤飲、窒息、溺水、熱傷、頭部外傷など	○							
11	子どもによくみられる健康問題とセルフケア発達の看護	○	梶原千尋	田中千尋	レポート② 乳幼児健診、予防接種 子どもの事故と対策				
12		○							
13	子どもの病気と死の理解	○							
14	終末期にある子どもと家族への看護	○							
15	健康障害が子どもと家族に与える影響	○							
16	成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族の看護	○							
17	検査・処置を受ける子どもに対する看護	○							
18		○							
19	小児科外来における子どもとその家族の看護	○							
20	精神発達遅滞、発達障がいのある子どもと家族の看護	○							
21	被虐待児と家族への看護	○							
22	小児に関する法律・施策・統計	○							
23	小児看護専門看護師の役割	○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 小児看護学

### 専門分野

授業科目	NICUの看護	講師	氏名	福田睦美	開講年次	単位 時間	
			所属		2年次 前期～後期	1単位 30時間	
			実務経験	助産師			
科目的ねらい	近年ハイリスク新生児の増加に伴い、NICUで高度な集中治療を受ける子どもが多い。子どもの長期的な入院生活はその後の成長・発達に大きく影響を与えるため、その障がいを最小限にするためのディベロップメンタルケアが求められる。またその子どもの家族に対する心理的な支援をするとともに、早期退院に向けた小児在宅療養への移行期の看護を学ぶ。						
到達目標							
知識技術	1. NICUに入院する子どもとその家族の特徴を説明できる。 2. 新生児の身体的特徴を説明でき、発育評価ができる。 3. 新生児の養育に必要な看護技術ができる。 4. 低出生体重児の特徴と治療を説明できる。 5. NICU(新生児集中治療室)における看護を説明できる。						
思考判断表現	1. ハイリスク新生児のその家族のアセスメントができる。 2. 新生児の取り巻く環境を踏まえ、子育て支援や小児医療の課題や今後の在り方について考察できる。 3. 子どもとその家族を支援する医療・福祉・教育の連携を理解し、多職種の中での看護師の役割を述べることができる。						
主体的学習態度	1. 子どもの人権を尊重した言動・態度ができる。 2. 主体的に学習し、自分の小児看護に対する考えを述べることができる。						
科目評価	①定期試験（筆記） 100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 (厚生統計協会) 国民衛生の動向						
参考文献	系統看護学講座 ①小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 ②小児臨床看護各論 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他			
1	新生児の「正常」を知る① 胎児の成長過程	○			福田 睦美	母性看護学実習で必要な基礎知識のため、事前学習を想定したレポート作成をして予習復習をする	
2	新生児の「正常」を知る② 分娩過程と新生児の生理概要	○					
3	新生児の「正常」を知る③ 分娩直後のルーチンケアと新生児管理の基本	○					
4	NICUにおける母乳育児支援と感染対策	○					
5	正常新生児の フィジカルイグザミネーション	○	○				
6	新生児の「異常」を知る① 早産児と低出生体重児の特徴とケア		○				
7	新生児の「異常」を知る② 呼吸器疾患 (TTN/RDS/MAS)	○					
8	新生児の「異常」を知る③ 新生児黄疸、新生児低血糖	○					
9	新生児の「異常」を知る④ 先天異常 (21トリソミー/18トリソミー)	○					
10	新生児の「異常」を知る⑤ 分娩損傷と新生児仮死	○					
11	周産期統計と周産期医療の現状	○					
12	脳性麻痺の看護	○				田中 千尋	周産期の看護 小児の発達と看護 子どもの病を見る
13		○					
14	正常新生児のフィジカルイグザミネーションと沐浴		○				
15			○				
備考	臨床(病院)での助産師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

## 母性看護学

(令和5年度1年生用)

## 専門分野

授業科目	リプロダクティブヘルスの看護	講師	氏名	福田 瞳美	開講 年次	単位・時間	
			所属		1年次	1単位 30時間	
			実務経験	助産師	後期		
科目的ねらい	母性看護は、性と生殖に関わる様々な問題や周産期における看護の中心となる概念を踏まえ、正常な経過をたどる妊娠婦とその家族の看護について学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. リプロダクティブヘルスに関する概念とその動向を捉え、母子保健の法律や施策を述べることができる。 2. ヒトの発生・性分化のメカニズムや生と生殖の過程を理解し、生殖器の健康問題を説明ができる。 3. 不妊症・更年期が与える身体的・心理的・社会的影響踏まえた支援を述べることができる。						
思考・判断・表現	1. ウエルネスの視点でアセスメントができる。 2. 母性看護学における看護師の役割を考察できる。 3. ヘルスに関連する倫理的問題を考察できる。						
主体的学習態度	1. 主体的に学習し、周産期の看護の特徴について述べることができる。 2. 生殖に関する人体の構造と機能を復習し、妊娠のメカニズムを説明できる。						
科目評価	定期試験（筆記）(70%) 発表(15%) ポートフォリオ提出(15%) 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 母性看護学① リプロダクティブヘルスと看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 (メディカ出版) 病気が見える vol. 10 産科 (メディックメディア)						
参考文献	系統看護学講座 医学書院 母性看護学各論						
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習				その他
1	母性看護の概念	○					
2	リプロダクティブヘルスに関する概念	○					
3	生殖に関する生理(男性・女性)	○					
4	月経異常	○		○			
5	女性生殖器の腫瘍 子宮筋腫・子宮内膜症・子宮癌・乳癌	○					
6		○					
7	性感染症	○		○			
8	加齢とホルモンの変化	○		○			
9	妊娠のメカニズム	○					
10	妊娠と胎児の生理とアセスメント	○					
11	妊娠健康診査						
12	妊娠期の健康維持のためのセルフケアマネジメント	○					
13	妊娠の看護に関わる技術 (レオポルド触診法)	○	○				
14	父親・母親学級	○	○	○			
15	まとめ(発表)	○		○			
備考	臨床(病院)での助産師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

福田 瞳美

母性看護学  
国際看護学  
倫理学  
小さな生物  
高齢者看護へようこそ  
ここらの病を見る  
家族看護学  
教育学

講義予定の内容は、テキストを熟読して講義に臨むこと。

## 母性看護学

### 専門分野

授業科目	周産期の看護	講師	氏名	①内藤 直美 ②松本信一郎 ③安武タ子	開講 年次 2年次 前～後期	単位・時間 2単位 45時間			
			所属	①③専任教員 ②病院					
			実務経験	①③臨床看護師 ②医師					
科目的ねらい	マタニティサイクルにある母子やその家族を含めた看護の展開、ハイリスク妊・産・褥婦の看護における知識と技術の修得を目指す。								
到達目標									
知識・技術	1. 周産期の特徴を述べることができる。 2. 産・褥婦に必要な技術を実践できる。								
思考・判断・表現	1. 周産期の特徴を踏まえて、周産期看護を展開することができる。 2. ハイリスク妊産婦に対する予防的支援を理解できる。								
主体的学習態度	1. 主体的に学習し、講義、演習に参加することができる。								
科目評価	定期試験（筆記）（100%）								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 (メディカ出版) 病気が見える vol.10 産科 (メディックメディア)								
参考文献	系統看護学講座 医学書院 母性看護学各論								
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項			
		講義	演習	その他			講師		
1	分娩の生理	○			内藤直美	講義前に課題を提示します。事前に学習をした上で講義に参加して下さい。			
2	産婦と胎児のアセスメント	○		○					
3	産婦のニーズと看護	○		○					
4	産婦の看護に関わる技術	○	○	○					
5	胎児の健康状態の観察	○							
6	分娩に向けた産婦の準備とケア	○		○					
7	妊・産・褥婦と家族の心理的変化	○		○					
8	産褥の生理(進行性・退行性変化)と看護	○							
9		○							
10	母乳育児と看護	○	○		松本信一郎	正常に経過する周産期を理解した上で異常を理解する。			
11	褥婦の看護に関わる技術	○	○						
12	妊娠疾患	○							
13	多胎妊娠、子宮外妊娠	○							
14	流産・早産	○							
15	分娩期の異常	○							
16		○							
17	帝王切開、産科処置	○			安武タ子	事例を用いて看護展開をする。			
18	産褥期の異常	○							
19~22	周産期における看護の展開 妊娠期・分娩期・産褥期	○							
		○							
		○							
		○	○	○					
23	まとめ	○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 精神看護学

### 専門分野

授業科目	こころの働きと精神保健	講師	氏名	戸田 真理	開講 年次	単位・時間	
			所属	専任教員	1年次	1単位 30時間	
			実務経験	臨床看護師	後期		
科目のねらい	精神看護の基本となる全ての人間を対象として健康な生き方とは何かについて考える。精神保健上の問題が生活に与える影響を理解し、基本的な関わり方を学習する。また精神保健医療に関する歴史的背景、人権擁護、倫理について学習し、看護師としての専門的な関わりを理解する。						
到達目標							
知識・技術	1. こころの健康とは何かを理解し、ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスについて説明できる。 2. こころの健康に及ぼす要因と対処法について理解し、説明できる。 3. 精神医療の歴史と課題を理解し、そこからつられた法制度と経済施索の関係を調べることが出来る。 4. ノーマライゼーションの理念と障害者の生活について関係づけることができる。 5. 施設見学で得た知識をレポートにまとめ、プレゼンテーションできる。						
思考・判断・表現	1. ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴を自己のライフサイクルと照らし合わせ、自己の考えをまとめることができる。 2. 現代の精神医療を踏まえ、精神医療の課題を調べることができる。 3. 精神障害者福祉の歴史を理解し、障害者の人権擁護について意見交換ができる。 4. 障害の有無に関わらず、精神的健康を維持するために必要なことを調べることができる。						
主体的学習態度	1. 精神看護における倫理や人権擁護について、自己に置き換えて考え方説明できる。 2. ワーク中は協力的に行動し、積極的に参加する。						
科目評価	定期 (筆記) 試験 60% 課題レポート・ワーク評価30% 単元別テスト10% 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) 系統別看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)						
参考文献	新体系看護学全書 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生学 (メジカルフレンド社)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	人間のこころとは・人間理解	○			戸田 真理	心理学 発達心理学	事前課題：ICFとノーマライゼーションについて、事例を使って説明しさらに自己の考えを含めてレポートする。講義開始1週間前に提出のこと
2	2) ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴	○					
3	3) ライフイベントに伴うストレスがメンタルヘルスに与える影響	○	○				
4	現代社会とこころの健康	○	○			精神医療の歴史について事前に調べる	
5	精神障害者の動向と社会	○					
6	日本と諸外国の精神医療の変遷	○					1～7次までの単元テスト
7	精神保健福祉活動	○				精神障害者的人権についてワークし、ディベートする	
8	地域包括ケアシステムと多職種連携	○					
9	看護の倫理と人権擁護・障害者の権利と遭遇 地域における障害者の権利擁護	○	○				
10		○	○			事例によって入院形態を考える。 8～10次までの単元テスト	
11	地域移行支援、地域生活支援の基礎	○	○				
12	看護師のメンタルヘルス	○	○		倫理学	理論を基に事例をアセスメントする 病院の特徴を理解する ワークを行い発表し学びを共有する	
13	精神科病院の見学	○		○			
14		○					
15	施設見学のまとめを発表		○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

精神看護学

専門分野

授業科目	精神医療を支える看護	講師	氏名	①戸田 真理 ②黒木 将司 ③入江 正光 ④臨床看護師	開講 年次	単位・時間
			所属	①専任教員 ②④病院 ③訪問看護ステーション	2年次 前～後期	2 単位 45時間
			実務経験	①②④臨床看護師 ③精神看護専門看護師		

科目的ねらい 国の施設である「入院から地域へ」を基に精神障害者が地域で暮らすためのシステムや支援の方法について学ぶことは重要である。また依存症や発達障害などの患者が増加しており、精神科医療を支える看護を学ぶ。

到達目標

知識・技術	1. 再構成の目的を理解し再構成を記述できる。 2. 看護師-患者関係における治療的関わりについて説明できる。 3. 精神医療でおこなわれる治療と看護の実践について理解し、説明できる。 4. 精神症状が生活にどのように影響するか、事例をもとに看護援助を検討し実践できる。 5. 身体拘束の目的方法を理解し、安全に配慮しながら装着できる。 6. 精神疾患を抱える家族の苦悩を理解し、家族への援助を立案できる。 7. 精神障がい者の入院から社会復帰するまでに関わる多職種の役割について考えることができる。 8. 精神科病院の見学を行い、精神保健福祉法で定められている行動制限や人権擁護について知り、学生間で意見交換できる。	
思考・判断・表現	1. 精神科病院の見学及び身体拘束を実践することで、精神看護に対する権利擁護とは何かを探求できる。 2. 再構成を記述することで気づいた自己の傾向を分析できる。 3. 地域で暮らす障がい者の実情を知り、支える援助とは何かを探求できる。 4. 他のグループの看護場面を見学し、自己の援助と比較検討し、分析、修正できる。	
主体的学習態度	1. 自己の感情を素直に表現できる。 2. ロールプレイを積極的に参加できる。 3. 対象のストレングスをエンパワーメントするための看護方法を検討できる。 4. 既習の知識を活用し、常に学習に臨んでいる。	
科目評価	定期(筆記) 試験60% ロールプレイ20% 関連図およびレポート20% 合計100%	
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (メディカ出版)	
参考文献	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院) 系統別看護学講座 精神看護の基礎 (医学書院) 系統別看護学講座 精神看護の展開 (医学書院) 系統別看護学講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)	

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項		
		講義	演習	その他					
1	自己理解・他者理解	○			戸田 真理	医療現場のコミュニケーション	自己の感情を素直に表現し、強みを知る		
2	専門的人間関係の構築 (治療的コミュニケーション)	○	○						
3	再構成	○	○						
4	精神科治療と看護 1) 対象理解			○					
5	精神科治療と看護 2) ケアの方法 3) 入院環境と看護	○		○					
6	精神症状別看護 1 日常生活に影響を及ぼす症状と看護	○							
7	精神症状別看護 2 幻聴 妄想 不安 睡眠障害 抑うつ	○							
8	身体拘束の看護		○						
9	精神疾患を抱える患者とその家族の看護	○							
10			○						
11	精神科のリハビリテーションと多職種連携	○			黒木 将司	ここでの病を診る 薬物療法の看護 (領域横断) 社会保障 社会福祉 公衆衛生	治療と病態をふまえて、生活障害や生きづらさとの関連を理解する。		
12	地域における精神看護	○							
13	リエゾン精神看護	○							
14	精神障害者の看護展開 1) 統合失调症(レクリエーションに参加しない対象への援助を実践 急性期・慢性期事例) 2) 気分障害(寝たきりで飲水ができない事例)	○			入江 正光				
15		○							
16	3) 不安障害 (不安が強く薬を要求する事例) 4) 強迫性障害 (手洗いをやめられない事例) 5) 物質関連障害 (ゲーム依存症の子どもとその母親の事例)				戸田 真理	看護過程 看護理論の基礎 多言語コミュニケーション 医療現場のコミュニケーション	「ここでの病を見る」で学んだ知識を活用し、先の事例を使って具体的な援助の方法を各自で立案する。立案された内容を講義で発表し、それぞれディスカッションしながら、修正していく。		
17	6) パーソナリティ障害・摂食障害 (リストカットを繰り返す事例)								
18		○							
19	事例を用いたロールプレイ		○		戸田 真理	事前に指定した動画を視聴し、事前学習をしておく。それぞれの役割を通してロールプレイを実施する。当日欠席の場合は、評価できない。			
20		○							
21	ロールプレイの振り返りとまとめ	○	○						

備考 臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	医療安全	講師	氏名	①山下朝乃 ②西岡加代子	開講年次 2年次 前期	単位・時間 1単位 20時間			
			所属	①病院 医療安全対策室 ②専任教員					
			実務経験	①②臨床看護師					
科目のねらい	医療事故は起こしてはいけないことがあるが、日常的に発生する可能性があることを十分に認識することが重要である。人はなぜ医療事故が起こるのか、「ヒトは誰でも間違える」人間の特性を理解する。また、事故防止に向けて組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 医療安全における基本的知識を説明できる。 2. 医療現場における危険の予知と回避、事故防止の安全対策の方法を説明できる。 3. 安全確保の方法について説明できる。 4. 組織（国・医療法・看護職能団体）で取り組む安全管理体制を説明できる。 5. 医療安全における看護師の責務と役割を説明できる。								
思考・判断・表現	1. 安全管理への心構えと対応について考えることができる。 2. 医療安全の課題を考えることができる。								
主体的学習態度	1. 医療事故の発生要因を分析し、防止対策についてグループワークで発言することができる。 2. 近年の医療安全の動向についてニュース・SNSや文献で調べることができる。								
科目評価	定期試験（筆記）70% ワーク・レポート 30% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（メディカ出版）								
参考文献	パワーアップ問題演習 基礎看護学（サイオ出版） 系統別看護学講座 医療安全（医学書院） 医療安全ワークブック（医学書院）								
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項				
1	医療安全を学ぶ意義 1) 医療安全を学ぶ重要性 2) 医療安全の取り組み	○	山下朝乃          西岡加代子	各専門看護学 論理学 I (論理的思考) 倫理学 心理学 医療現場のコミュニケーション          事例をもとにグループワーク・発表する。	事前課題 ①基礎看護学実習Iを想起し、医療施設で起こりうる医療事故についてのレポート ②医療施設での医療事故に関する時事問題をレポート（提出日時については掲示）				
2	医療安全の基本概念 1) 医療事故の定義 2) 看護師及び看護業務の法的な規定	○			事後学習 講義資料をもとに学習内容を復習する。				
3	医療安全施策と医療の質の評価 1) 医療事故と事故防止の考え方 2) 組織的な安全管理体制への取り組みと医療安全対策	○							
4	事故発生のメカニズムと防止対策 1) 事故の構造・事故防止の考え方 2) 人間の行動（人間の特性） 3) ヒューマンエラーのメカニズム 4) 事故分析 5) 事故後の対応	○							
5	安全確保と倫理 1) 身体拘束とは 2) 身体拘束となる具体的な行為	○ ○			アーツルームで演習 体操服準備 1年次に履修したを事前に復習しておくこと。				
6	看護における安全対策 1) 「療養上の世話」の事故防止 2) 「診療の補助」の事故防止 3) その他（業務領域をこえて共通する事故防止） 口頭指示・患者認証・コミュニケーションエラー	○							
7	看護学生の実習と安全 1) 実習中の事故防止 2) 事故発生時の学生の対応	○							
8	事例紹介・討議（グループワーク） 1) KYTトレーニング危険予知トレーニング	○ ○							
9		○ ○							
10		○ ○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	国際看護	講師	氏名	①橋本香織 ②安部信一	開講年次 3年次 前期	単位・時間 1単位 30時間			
			所属	①病院 ②専任教員					
			実務経験	①臨床看護師 ②専任教員					
科目的ねらい	国際看護とは、世界の人々の生活や環境を知り、国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。また、グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際協力分野における看護実践に必要な概念と国際的視点を養う。								
到達目標									
知識・技術	1. 国際看護の概念・目的が説明できる。 2. 国際看護活動について説明できる。 3. 国際看護における看護師の役割を考えることができる。								
思考・判断・表現	1. 文化的違いを踏まえた看護を考えることができる。 2. 国際看護活動を基に、多種多様な視点から国際看護における看護師の役割について自分の意見を述べることができる。								
主体的学習態度	1. グループディスカッションで自ら積極的に意見交換ができる。 2. 看護学生として知識を活用し、国際看護について探求できる。								
科目評価	単元別試験70%、レポート評価10%、GW評価20% 合計100%								
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学（医学書院）								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他		講師	関連科目	留意事項			
1	国際看護とは	○		橋本香織	文化人類学 医療人類学 看護学へようこそ 災害看護 社会保障 社会福祉 ICTの基礎 多言語コミュニケーション 医療コミュニケーション	国際看護について調べて、講義に臨む。			
2	国際社会における国際看護活動と課題 1) 国際社会 2) 国際協力	○							
3		○							
4	海外の医療施設と実際	○		安部信一	①課題レポート 国際看護師と看護ボランティアについて調べ講義に臨む。 ジャイカの方に看護ボランティアについて講義・意見交換（zoomも含む）し、講義後レポート用紙にまとめて提出。	事前課題① 海外の医療施設と看護の実際（制度の違い）調べて講義に臨む。			
5	国際看護師と看護ボランティア	○	○						
6		○							
7	国際看護学に関する基礎知識 1) 世界の健康問題の現状	○							
8	2) グローバルヘルス	○							
9	3) 国際協力のしくみ	○							
10	国際看護に関わる看護 1) 開発協力と看護	○							
11	2) 国際救援と看護	○							
12	海外の文化の違いと、対象からみた医療・看護の違い 1) 多様な文化や価値観	○	○						
13	2) 文化を考慮した看護	○							
14	21世紀の国際協力の課題	○							
15	国際看護学まとめ	○	○						
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	災害看護	氏名	岡野大輔 <th data-kind="parent" data-rs="3">開講年次 3年次 後期</th> <th data-kind="parent" data-rs="3">単位・時間 1単位 30時間</th>	開講年次 3年次 後期	単位・時間 1単位 30時間	
		所属	病院			
		実務経験	臨床看護師 元日本DMAT			
科目的ねらい	日本は自然災害が多い国であり、災害によって私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。災害発生により救急システムは崩壊し、多数の傷病者が発生する。病院機能、医療資材の不足、医療従事者の不足の為、充分な治療が不可能となる。そのような状況下で「1人でも多くの人を救う」ため、治療の優先順位をつけるのがトリアージである。災害現場では絶対的なものではなく、現場に応じた臨機応変、基本的な災害に関する知識、学校がある福津市の特徴を理解することが地域からも求められている。この単元では、今までで学習した基礎看護学等の基本的な技術を活用し、被災者の健康状態をアセスメントする能力、柔軟な対応、災害現場をイメージしながら災害看護の活動の意義を実感する。					
到達目標						
知識・技術	1. 災害の定義と種類を理解し、述べることができる。 2. 災害情報の種類と内容を理解し、説明できる。 3. 基礎看護技術の知識を使用し、災害看護に使える方法を選択できる。 4. 災害発生時の医療提供体制について説明できる。 5. 災害時の治療の優先順位の必要性を説明できる。 6. 講義、自己学習を活かし看護活動を実施することができる。					
思考・判断・表現	1. 校外学習で学んだ知識を使って、共有できるような発表ができる。 2. 地域の防災対策や方法を知り、看護師として必要なことを考え課題を明確にできる。 3. トリアージを実施し、治療の優先順位を考えることができる。 4. 災害時をイメージし、演習で看護活動として行動できる。					
主体的学習態度	1. 災害看護について興味・関心を高めることができる。 2. 地域の防災マップや防災対策について積極的に調べる行動が出来る。 3. グループ間で協力的な行動がとれる。グループワーク、演習で自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 4. 教科書を用いた基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習し演習に参加することができる。					
科目評価	定期試験（筆記）（50%）校外学習活動と発表資料（40%）リアクションシート（10%）					
合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護（メディカ出版）					
参考文献						
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項
		講義	演習	その他		
1	オリエンテーション災害の種類と定義 (災害対策基本法・WHO・IFRC) CSACATTとは 災害看護とは 災害支援ナース	○	○	○	岡野大輔	動画視聴 WHO・IFRCについて事前に学習しておく
2		○	○			グループで実際に場所を確認し、福津の防災マップ・水光会病院・学校の防災対策を調べてまとめ発表する
3	災害情報の種類と内容 トリアージとは トリアージと法律上の問題	○				医療人類学 文化人類学 公衆衛生 診療補助援助技術Ⅰ・Ⅱ 療養生活援助技術Ⅰ・Ⅱ 地域と暮らし 医療安全 健康教育
4	発表	○	○			医療器具が無い状態でどのように看護するか、グループで検討して実施 演習を行うため動きやすい服装で行う(体操服)
5	応急処置・治療 応急処置(実践)		○			演習を行うため動きやすい服装で行う(体操服)
6	移送・搬送		○			ワーク
7	事例 シミュレーション トリアージ		○			ワーク
8			○			ワーク
9	状況予測型訓練		○			ワーク
10	状況予測型訓練		○			ワーク
11	被災者の生活の場で起こりうる問題		○			ワーク
12	被災者の生活の場で起こりうる問題		○			ワーク
13	被災地へ派遣される際に持参する物		○			ワーク
14	災害時の医療体制		○			ワーク
15	災害時に活動する団体: DMAT等	○		○		ワーク
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。					

## 看護の統合と実践

## 専門分野

授業科目	看護マネジメント	講師	氏名	①前田寛美 ②藤嶋早百合	開講年次	単位・時間			
			所属	①専任教員 ②病院	3年次 後期	1単位 30時間			
			実務経験	①②臨床看護師					
科目的ねらい	看護マネジメントでは、変化続けている保健・医療・福祉のなかで、社会のニーズに応える看護を提供するために、必要な知識を修得する。看護チームにおいてリーダーシップ能力およびコーディネート能力を発揮しながら、看護の対象者のニーズに応じた看護ケアのマネジメントを実践するための基礎的知識、ならびに看護サービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎的知識を修得する。キャリア開発について学び、自己のキャリア形成について考えることができる。								
到達目標									
知識・技術	1. 看護を提供するために必要な継続ケア（組織・体制）を説明することができる。 2. 看護サービス、看護管理（マネジメントサイクル）について説明することができる。 3. 看護に関連する法律や医療制度を説明することができる。 4. 4つの材「人材」「人財」「人在」「人罪」について説明できる。								
思考・判断・表現	1. 看護管理におけるマネジメントとしてのチーム医療を考えることができる。 2. 看護サービスを経営的側面、労働の側面から考えることができる。 3. 多職種連携・協働において看護管理に必要なことを考えることができる。 4. 看護管理のあるべき姿を考えることができる。								
主体的学習態度	1. グループワーク、演習で自分の意見を述べることができる。 2. 組織の一員として意識しながら学習に取り組むことができる。								
科目評価	定期試験（筆記）：50% 事前課題：50% 合計100%								
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院)								
参考文献	学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 (日本看護協会出版会)								
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項				
		講義 演習 その他							
1	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護におけるマネジメントの考え方	○			GW マネジメントに必要な資源について身近な活動を例にあげて考えよう。				
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の昨日 2) 患者の権利の尊重	○			事前課題 看護ケアマネジメントとは何か調べよう				
3	3) 安全管理 (1) 安全管理のしくみ (2) 医療事故対策 ・医療事故とは	○			事前課題：(想起学習) ①医療事故の定義を述べ、医療事故と医療過誤に違いについて ②インシデントとアクシデントの違いを述べ、ハイシリッヒの法則について ③スタンダードプロトコーションの基本概念を説明し、基本対策を5項目挙げなさい。				
4	(2) 医療事故対策 ①院内感染対策 ②災害の予防と対応	○			GW MRSAが発生した際の対応策を考えよう				
5	4) チーム医療 (1) チーム医療とは (2) チーム医療に必要な機能 (3) 責任と役割 (4) 多職種連携・協働	○							
6	5) 看護業務の実践 (1) 看護業務 (2) 看護基準と手順 (3) 情報の活用 (4) 日常業務のマネジメント	○			GW： ①1日の病棟業務の流れを組み立ててみよう。 ②情報管理の仕方について考えよう。				
7	3. 看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとは 2) ライフサイクルとキャリア 3) ワーク・ライフ・バランス 4) キャリア開発とは 5) キャリア開発ラダーの考え方	○			事前学習 現時点であなたが目指している看護職のイメージを描き、自己のキャリアを展望してみましょう				
8	4. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメントとは 2) 組織目的達成のマネジメント	○							
9	3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材マネジメント（労働環境も含む）	○							
10	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント	○			GW：マネジメントに必要な資源について身近な活動を例にあげて考えよう。				
11	7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるリスクマネジメント 9) サービスの評価	○			事前課題：「個人情報の保護に関する八原則」について調べよう。GW：実習で体験した個人情報保護に関する注意事項を考えよう				
12	5. 看護職の法的責任 1) 看護の定義 2) 看護職に問われる法的責任 3) 看護業務の法的範囲 4) 看護師に求められる判断 5) 看護師に必要とされる注意義務	○			事前学習： 看護職に問われる3つの法的責任について GW：看護職はどんな法的責任にとわれるか考えよう				
13	6. 看護者の基本的責務 1) 倫理とは 2) 法と倫理 3) 看護に倫理が必要なのか 4) 看護者の基本的責務 5) 看護の「責任を果たすために求められる努力」とは	○			事前課題（想起） 6つある倫理の原則に基本的な意味について GW：看護の責任を果たすために求める努力について考えよう				
14	7. 日本の医療制度と病院経営 1) 医療提供体制 2) 医療保険制度 3) 診療報酬制度	○							
15	演習 1. キャリアプランを考えよう 2. 自分自身の体験するストレスと対処法を検討してみましょう 3. グループ活動を振り返り、自分のリーダーシップスタイルを考えてみましょう	○			演習を通して自己を見つめ直す。看護を行う上で必要な態度を考える。				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

領域横断

専門分野

授業科目	薬物療法の看護	講師	氏名	①西岡加代子 ②桑原麻衣	開講年次	単位・時間 1年次 後期 1単位 30時間			
			所属	①②専任教員					
			実務経験	①②臨床看護師					
科目的ねらい	看護師は与薬の実践者として患者に直接薬を与え、その効果や副作用を最も間近で観察する立場にある。また対象の疾病的管理・コントロールを行う上で薬物治療はかかせない。本科目では、各専門看護学で学ぶ薬物療法の看護に繋がるよう全ての対象に共通する薬物療法の看護とその役割を学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 臨床薬理における基礎的知識を想起し、各種薬物の作用・副作用、薬物動態のしくみを述べることができる。 2. 薬を投与される対象の不安や悩みについて知り、述べることができる。 3. 薬物療法における看護師の役割を列挙できる。 4. 薬物療法中の援助の必要性について説明することができる。 5. 薬を自己調整する対象に対する援助を述べることができる。 6. 各種場面における服薬時の看護を述べることができる。								
思考・判断・表現	1. 薬物療法における様々な対象を想定し、対象に応じた援助を考えることができる。 2. 対象の薬物療法における不安や悩みに気づき、説明することができる。 3. 薬物療法に関する医師との連携の図り方や、対象にとってより良い関わりを考えることができる。 4. 対象に合わせた服薬指導の重要性に気づく。								
主体的学習態度	1. 対象の安全、安楽に配慮する行動をとることができる。 2. 臨床薬理学の講義資料、テキストを使って調べ学習ができる。 3. グループワークやシミュレーション時にグループで協調的態度を示すことができる。 4. 各種の「病を見る」科目と関連させながら、学習を進めることができる。								
科目評価	定期試験（筆記）：60% シミュレーション及び事例ワーク：40% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論（メディカ出版） 系統看護学講座 病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学（医学書院） 他各専門科目のテキスト								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項			
1	薬物療法と看護の基礎的知識 1) 薬理作用と副作用 2) 薬物動態 3) 薬物治療と管理 4) 薬剤管理	○		西岡 加代子                桑原 麻衣	臨床薬理学の基礎的知識を基に復習テストを行う。また臨床薬理学の講義資料を持参する。                 からだの構造 からだの機能 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体を守ることの病を見る 子どもの病を見る こころの病を見る 臨床薬理学 病理学総論 各専門看護学 医療安全	事例を使い、対象別に発熱と便秘、坐薬を使用時にどのような作用副作用があり観察を行っているのか、看護に必要な臨床判断能力を身に付けるためにワークする。そのためからだの構造・機能、病理学総論と臨床薬理学の復習を行っておくこと。                 グループワークで考えたことを発表する。                 発表した内容を振り返る                 臨床薬理学・薬物療法の看護について復習し、コンプライアンスとアドヒアラנסについて学習をしておく。                 シミュレーション学習について準備をしておく。 インスリンについて学習をしておく。                 服薬を拒否する理由について学習をしておく。			
2	対象の状況に応じた薬物療法と看護ライフサイクルに応じた場面でのグループワーク 1) 発熱時の看護 2) 便秘時の看護 3) 坐薬時の看護	○	○						
3									
4									
5									
6			○						
7	1. シミュレーション教育とは 2. 薬物療法における看護師の役割とは	○							
8	3. 服薬アドヒアラנסを高めるための服薬指導 1) 成人 2) 老年シミュレーション	○	○						
9	3) 小児シミュレーション	○	○						
10	4) 母性シミュレーション	○	○						
11	4. 服薬拒否をする精神障がい者のシミュレーション	○	○						
12	5. 解熱鎮痛薬と薬時のシミュレーション ①成人	○	○						
13	②老年・小児	○	○						
14	6. 薬物療法における看護師の役割 1) チーム医療の一員としての情報共有・発信について 2) メディケーションエラー	○	○						
15									
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 領域横断科目

## 専門分野

授業科目	病気と共に生きていく人への看護	講師	氏名	①不動寺美紀 ②長谷川京子 ③川口慎一郎	開講 年次 2年次 前期	単位・時間 1単位 30時間			
			所属	①③病院 ②専任教員					
			実務経験	①慢性疾患看護専門看護師 ②臨床看護師 ③脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師					
科目のねらい	私たちは、現在3次予防の視点をもとに、社会生活を営み、1人1人が常に高い健康志向を抱いている。このような背景を理解し、疾病と共に生きていくあらゆる発達段階の対象の身体的・精神的・社会的特徴を考え、慢性期に必要な看護を実践する基礎的能力を養う。また、身体の回復は明らかであるが、何らかの機能障害が残るリスクのある回復期に必要な看護を実践する基礎的能力を養う。								
到達目標									
知識・技術	1. 慢性疾患の種類および経過について説明できる。 2. 慢性疾患をもつがん、回復期における対象者の特徴・精神的・社会的特徴を説明できる。 3. 慢性疾患をもつがん、回復期における対象者にかかる専門職について説明できる。 4. 慢性疾患をもつがん、回復期における対象の実際の役割とその支援について説明できる。 5. 慢性疾患をもつがん、回復期における対象の実際の役割とその支援について説明できる。 6. 慢性疾患を育する人に行われている治療の特徴について説明できる。 7. リハビリテーション看護の専門性と役割について説明できる。								
思考・判断・表現	1. 事例とともにあらゆる発達段階における慢性疾患をもつ対象の支援、援助を検討し、ロールプレイにて指導を実践することができる。 2. 事例とともにあらゆる発達段階における回復期における対象の支援、援助を検討することができる。								
主体的学習態度	1. 各発達段階、疾患の理解を深めたための予習・復習をすることができる。 2. ロールプレイにて事例の役割を演じることができます。								
科目評価	定期試験(筆記) 20% ロールプレイ40% 事前課題10% 合計100%								
テキスト	ナーシング・グラフィカ 開人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 開人看護学③ セルフマネジメント (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 症状看護論 (メディカ出版) 成人看護学慢性期看護 病気と共に生活する人を支える (南江堂)								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他	講師	関連科目	留意事項				
1	1. 慢性期看護とは 1) 慢性疾患の特徴 2) 慢性疾患における治療の特徴 3) 慢性疾患有する人ひとり多く疾患環境の特徴 4) 慢性疾患有する人にに対する看護師の役割 5) 慢性疾患有する人にかかる専門職とチーム医療 6) 慢性期看護の今後の展望	○	不動寺美紀	各専門看護学 社会福祉 地盤生活支援 社会復帰 健教教育 かんせん機能 かんせん構造 日常生活から見るからだ 疾患の成り立ちと回復の促進	事前課題 治療受け入れが困難な老年期の事例（糖尿病）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
2	慢性期疾患有する人とその家族の理解 1) 慢性疾患有する人の特徴 2) 病気および警告を受けられるプロセス 3) 慢性疾患有および治療が及ぼす自己負担への影響 4) 慢性疾患有する人を支える家族の特徴	○			事前課題 副作用が強く症状セルフマネジメントが必要な成人期の事例（悪性新生物）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
3	治療受け入れが困難な老年期の事例（糖尿病）の指導の実際	○			事前課題 セルフモニタリングの教育が必要な精神疾患有もつ対象の事例（統合失調症）で必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
4	副作用が強く症状セルフマネジメントが必要な成人期の事例（悪性新生物）の指導の実際	○			事前課題 治療に関する意思決定に対する支援が必要な成人期の事例（筋萎縮性側索硬化症）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
5	セルフモニタリングの教育が必要な精神疾患有もつ対象の事例（統合失調症）の指導の実際	○			事前課題 筋萎縮性側索硬化症に対する意思決定に対する支援が必要な成人期の事例（筋萎縮性側索硬化症）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
6	治療に対する意思決定に対する支援が必要な成人期の事例（筋萎縮性側索硬化症）の指導の実際	○			事前課題 意思決定しなければならず、家族を含めた支援が必要な成人期の事例（人工透析の導入）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
7	役割変更しなければならず、家族を含めた支援が必要な成人期の事例（人工透析の導入）の指導の実際	○			事前課題 急性増悪を繰り返し、教育的支援が必要な小児期の事例（ネフローゼ症候群）について必要な支援・援助を検討したものを作成して実践する。				
8	急性増悪を繰り返し、教育的支援が必要な小児期の事例（ネフローゼ症候群）の指導の実際	○	長谷川京子		事前課題 妊娠の経過と糖尿病について復習しておくこと				
9	糖尿病の事例の検討と指導の実際	○			事前課題 回復期における成人期の事例（耐糖症）に必要な支援・援助を検討する。				
10		○			事前課題 回復期における老年期の事例（耐糖症）に必要な支援・援助を検討する。				
11	回復期看護とは 1) 回復期の定義 2) 回復期の疾患とは 3) 回復期における年齢の身体的・精神的・社会的特徴 4) 回復期における問題 5) 回復期における看護の基本	○			事前課題 回復期における精神疾患有もつ対象の事例（うつ病）に必要な支援・援助を検討する。				
12	回復期における成人期の事例（耐糖症）の発表会、まとめ	○			事前課題 回復期における老年期の事例（耐糖症）に必要な支援・援助を検討する。				
13	回復期における老年期の事例（耐糖症）の発表会、まとめ	○	川口慎一郎		事前課題 回復期における小児期の事例（耐糖症）に必要な支援・援助を検討する。				
14	回復期における小児期の事例（耐糖症）の発表会、まとめ	○			事前課題 回復期における精神疾患有もつ対象の事例（うつ病）に必要な支援・援助を検討する。				
15	回復期における精神疾患有もつ対象の事例（うつ病）の発表会、まとめ	○			事前課題 回復期における精神疾患有もつ対象の事例（うつ病）に必要な支援・援助を検討する。				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 領域横断

## 専門分野

授業科目	クリティカルケア看護	講師	氏名	①田中美穂子 ②岡野大輔	開講 年次	単位・時間			
			所属	①病院 ②専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間			
			実務経験	①救急看護認定看護師 ②臨床看護師					
科目的ねらい	クリティカル看護とは、急激に生命を脅かす対象に対して行われる看護である。また、対象を早期に回復させるために多職種との連携が行われている。突然訪れる生命の危機状態のある対象を理解し、救命に必要な知識・技術を身につけ、社会復帰に向けて必要な看護師の役割・多職種連携を学ぶ。								
到達目標									
知識・技術	1. 急性期から回復期看護の特徴を説明できる。 2. 急性期から回復期にかけてのあらゆる発達段階の対象の変化をイメージできる。 3. 急性期から回復期の治療とその環境の特殊性を説明できる。 4. ICUで行われる治療と看護を理解し、全身の観察項目を説明できる。 5. 急性期の治療（気管内チューブを抜管した）を終えた対象の、（科学的）根拠を踏まえた観察項目が説明できる。 6. 急性期・回復期医療の看護師の役割と多職種の役割について説明できる。								
思考・判断・表現	1. 急性期疾患や病態、身体侵襲とその生体反応の特徴をふまえ看護実践を提案できる。 2. 急性期から回復期にかけての看護師の役割を考えることができる。								
主体的学習態度	1. 救急治療を必要とする対象の健康危機状況について講義の知識・文献検索を用いながらグループでディスカッションすることができる。								
科目評価	定期試験(筆記) 70% 課題(レポート含む) 30% 合計100%								
テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統別看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院) ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 (メディカ出版)								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項				
		講義 演習 その他							
1	クリティカル看護とは 生命の危機的状態にある対象の特徴と看護師の役割の理解 (危機的状況とは)	○	田中美穂子		急性期の定義及びクリティカルケアについて学ぶ。 救急医療の考え方について学ぶ。				
2	生命兆候を示す身体反応をとらえる(臨床推論) 1) VS・意識レベルより優先順位 2) 救急カート	○ ○			事前課題: 救急におけるトリアージと重症度 救急を必要とする対象と家族への情報収集とアセスメントを学ぶ。 救急外来における対象の緊急度と優先順位について学ぶ。				
3	救急医療体制 1) トリアージ・重症度の判断 2) 救急搬送の実際	○			救急対応のための準備について学ぶ。 救急カートにどのような物品・薬剤が入っているか学ぶ。				
4	BLS、ACLS	○			事前課題: BLS・ACLSの基礎知識 心肺蘇生法の基本的知識と一次救命処置・二次救命処置の実際を学ぶ。				
5			各専門看護学 からだの構造 からだの機能 日常生活から見た からだ		院内急変時における初期対応の流れについてシミュレーションで学ぶ。 講義後レポート				
6	生命の危機状況にある対象への看護 (病院内におけるCPA・院内急変時の特徴)	○			事前課題: ICUの環境について(図示) 集中治療を必要とする対象の身体的特徴、心理・社会				
7	・病院内の応援体制	○			ME機器の構造、使用方法・観察点について学ぶ。 1) 2) 3) は実際に操作し使用方法を演習する。				
8	生命の危機を脱した対象への看護 (ICUシンドローム・スバグッティ症候群・抜管後)	○			事前課題: 救急処置と看護についての基礎知識 集中治療を必要とする対象への応急処置と看護を学びグループで検討する。				
9		○			高齢者・小児・精神疾患をもつ対象における、集中治療と看護について、準備・練習を行い13～15回目で実践発表する。				
10	ME機器管理 1) 心電図 (12誘導心電図の検査方法と手順) 2) 輸液ポンプ 3) シリンジポンプ 4) 人工呼吸器 5) 中心静脈圧 6) スワンガントカテーテル 7) ECMO	○ ○	岡野大輔						
11	集中治療を必要とする対象への看護 (外傷・熱傷・中毒・体温異常など)	○							
12		○							
13		○							
14	各発達段階の集中治療と看護 (実践発表)	○							
15		○							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

領域横断科目

専門分野

授業科目	周術期の看護	講師	①岡野大輔 ②尾場瀬将裕	開講年次 2年次 前期	単位・時間 1単位 30時間
		所属	①専任教員 ②病院		
		実務経験	①臨床看護師 ②手術看護認定看護師		

科目的ねらい 周術期看護では、外科的治療を受けるあらゆる発達段階、健康段階の対象を多角的に看護実践する。そのため、外科的治療による侵襲をアセスメントし、その人の持つ回復力をいかに引き出せるかを考えることが重要である。術後の回復を促進するために予測と予防の観点を培い、基礎疾患が回復に及ぼす影響を理解し、その対象の特徴に応じた予測や予防を覚えるのではなく、深く考察できるようになる。

到達目標

知識・技術	1. 術前、術後、回復期にかけてあらゆる発達段階の対象の状態の変化がイメージできる。 2. 外科的治療による身体侵襲や術後合併症が身心に及ぼす影響を説明でき、観察と基礎的な看護実践ができる。 3. 全身麻酔と腰椎麻酔の看護の違いを説明できる。
思考・判断・表現	1. あらゆる対象の周術期における外科的侵襲と術後合併症を予測し、予防の看護を考えることができる。 2. 全身麻酔で手術を受けるあらゆる対象の術後の観察と看護実践をグループで検討し、発表ができる。 3. 術後の継続看護の必要性を発達段階別に比較しながら明確にできる。 (セルフケア技術の習得を促す援助、療養生活の場の調整、多職種連携は各専門分野で学ぶ)
主体的学習態度	1. あらゆる対象の周術期における看護を様々な文献を検索・活用しながらグループ間でディスカッションすることができる。 2. グループ間で役割分担しながら演習に参加し発表することができる。
科目評価	定期試験（筆記）80% 課題・レポート20% 合計100%
テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護（メディカ出版）
参考文献	周手術期看護 安全・安楽な看護の実践（インターメディカ）

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	外科的侵襲と術後合併症予防と発症時の看護 (呼吸・循環器・消化器合併症、感染・創部・検査値など)	○			尾場瀬将裕	各専門看護学からだの構造からだの機能日常生活から見るからだ病理学総論治療学総論臨床薬理学	事前課題 全身麻酔の術後合併症の発生機序・麻酔・挿管・人工呼吸器・身体侵襲・看護についてレポート
2		○					シミュレーション 事後課題
3		○					高齢者、小児、精神疾患をもつ対象の術直後～1日目観察と看護をグループで検討し、講義12～14回目で実践発表できるように準備、練習を行う。
4		○					シミュレーション後 レポート
5		○					
6		○					
7		○					
8		○	○				
9		○	○				
10		○					
11	腰椎麻酔で帝王切開手術を受ける対象の看護	○	○		岡野大輔		事前課題 腰椎麻酔で手術を受ける対象の看護のレポート
12	高齢者の術後観察と看護(実践発表)		○				課題 周手術期の看護師の役割のレポート
13	小児とその家族の術後観察と看護(実践発表)		○				
14	精神疾患をもつ対象の術後観察と看護(実践発表)		○				
15	周術期の看護師の役割		○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

## 領域横断科目

## 専門分野

授業科目	対象に合わせたフィジカルアセスメント	講師	氏名	①田中千尋 ②内藤直美 ③兼本恵美	開講年次	単位・時間
			所属	①～③ 専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間
			実務経験	①～③ 臨床看護師		
科目的 ねらい	基礎看護学で修得したフィジカルイグザミニエーションを基盤に、あらゆる発達段階に応じたフィジカルイグザミニエーションを実践し身体の状況を把握する能力を養う。また、身体的症状から得られた情報より対象の状態を身体的、心理的、社会的側面からヘルスアセスメントができ臨床判断能力に求められる「気づき」「解釈」できる能力を身につけさせる。その能力をシミュレーション実践につなげさせる。					
到達目標						
知識・技 術	1. あらゆる発達段階に応じたフィジカルイグザミニエーションを正確に実践できる。 2. 対象の状況に必要な情報を探し、収集することができる。					
思考・判 断・表 現	1. 各発達段階における対象の正常・異常が判断できる。 2. 対象の基準値から逸脱していた場合、その原因を検討し、評価することができる。 3. 対象の状況を踏まえ優先順位を考えた情報収集ができる。 4. アセスメントの結果を論理的思考を用いて報告し、SOAPで記述することができる。					
主体的学 習態度	1. フィジカルイグザミニエーションの練習が主体的にできる。 2. グループワーク時にグループで協調的態度を示すことができる。 3. 他者の意見を受け容れ、認めることができる。 4. 講義で学習した内容、テキスト、また他の文献を活用して自己学習をすることができる。					
科目 評価	定期試験（実技）100%					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント ナーシング・グラフィカすべてのテキスト（メディカ出版）					
参考文献	ナースピギンス 急変対応力10倍アップ 臨床実践フィジカルアセスメント（南江堂）					
回数	教育内容	教育方法	講師	関連科目	留意事項	
1	高齢者のヘルスアセスメント	○				
2	小児の身体測定と発育のアセスメント 身長、体重、頭囲、胸郭測定、バーセンタイル値との比較	○ ○				
3	小児のバイタルサイン測定（呼吸数、心拍数、直腸体温、血圧）	○ ○				
4	妊娠のヘルスアセスメント 体重測定、血圧測定、尿検査、腹囲測定、レオボルド触診法など	○ ○				
5	産婦のヘルスアセスメント 進行性変化、逆行性変化	○ ○				
6	心理的側面のアセスメント	○ ○				
7	呼吸困難時のフィジカルアセスメント 1) 成人期における対象のフィジカルアセスメント 2) 老年期における対象のフィジカルアセスメント 3) 乳幼児期の子どもにおける対象のフィジカルアセスメント	○ ○				
8		○ ○				
9		○ ○				
10	腹痛のフィジカルアセスメント 1) 成人期における対象のフィジカルアセスメント 2) 精神疾患をもつ対象のフィジカルアセスメント 3) 学童期、思春期の子どもにおける対象のフィジカルアセスメント 4) 妊婦、産婦のフィジカルアセスメント	○ ○				
11		○ ○				
12		○ ○				
13		○ ○				
14	不眠のフィジカルアセスメント	○ ○				
15		○ ○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。					

領域横断科目

専門分野

授業科目	シミュレーション実践	氏名	講師	桑原麻衣	開講年次	単位・時間			
			所属	専任教員	3年次 前期	1単位 30時間			
			実務経験	臨床看護師					
科目的ねらい	臨床現場を再現した状況の中で対象の症状の変化に合わせたヘルスアセスメントを行い、シチュエーション・ベースド・トレーニングを通して臨床判断能力を身につけるための基礎的な看護実践能力を養う。								
到達目標									
知識・技術	1. 対象の症状に合わせた安全・安楽な看護実践ができる。								
思考・判断・表現	1. 症状アセスメントの結果から、必要な看護を考えることができる。 2. 「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」を繰り返し、新たな自己の学習課題を確認することができる。								
主体的学習態度	1. 能動的な学習を行うことにより学習者が答えを見つけることができる。 2. シミュレーションでの「思考・感情・行動・態度」などから自己を振り返ることができる。 3. 対象の状況を予測、推論するために必要な学習を行うことができる。								
科目評価	定期試験(実技)100%								
テキスト	ナーシンググラフィカ すべて								
参考文献									
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項		
		講義	演習	その他					
1	シミュレーション教育について	○			桑原麻衣	小児期から老年期の対象のさまざまな症状から随伴症状を問診し、フィジカルアセスメントを実践しながら、看護を実践していく。  症状のメカニズム、症状看護を事前学習し臨むこと。  各年代の症状を事例を用い臨床判断を実践して、リフレクションをしていく。			
2	発熱時の対応		○						
3	呼吸困難		○						
4			○						
5	腹痛		○						
6			○						
7	嘔吐下痢		○						
8			○						
9	頭痛		○						
10			○						
11	脱水		○						
12			○						
13	尿失禁		○						
14			○						
15	不眠、食欲不振		○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

## 精神看護学

### 専門分野

授業科目	対象理解とこころの看護実習	講師	氏名	戸田真理	開講 年次	単位・時間			
			所属	専任教員	2年次 後期	2 単位 60時間			
			実務経験	臨床看護師					
実習目的	精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された対象やその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して、自己・他者理解を深める能力を養う。								
到達目標									
知識・技術	1. 対象の病態及び治療目標を理解し、必要な看護目標を立案できる。 2. 対象の病的側面だけでなく、健康的側面についての情報を意図的に収集しアセスメントできる。 3. 対象の精神症状が日常生活に及ぼし影響を理解し、アセスメントできる。 4. 対象の特徴や病態、症状、治療、日常生活自立度、社会資源の活用、家族背景等の全体像について関連図に記載できる。 5. アセスメントの結果をふまえ、看護の方向性に沿った援助が実践できる。 6. 対象のセルフケアレベルを考慮した援助が実践できる。 7. 再構成の場面や動機を明確にし、自己の感情について記載できる。 8. 対象との関わりの場面から自己を振り返り、対人関係の傾向を捉えることができる。 9. 対象のパーソナルスペースを確保しながら受容的、共感的態度で関わることができる。 10. 対象の症状や行動に応じたコミュニケーションの工夫を行い関わることができる。								
思考・判断・表現	1. 精神保健福祉法に定められた対象の治療環境(行動制限・入院形態)を見学し、精神科病院における看護師の役割を考えることができる。 2. 対象尾の安全な療養環境の確保(リスクマネジメント)と人権擁護について看護師の視点で考えることができる。 3. 対象が地域で暮らすために必要な支援(通院、訪問看護、地域連携、多職種連携)とは何かを検討できる。 4. 対象の生活維持に必要なセルフコントロールについての課題を考察できる。								
主体的学習態度	1. 実習中は積極的に質問や意見交換することができる。 2. 受け持ち患者に積極的にコミュニケーションをとることができます。 3. グループ間で協調できる。								
実習期間及び実習時間	1. 実習期間：10日間 学内実習：3日目、7日目、10日目午後(各2時間)、4日目(6時間) 2. 実習時間：原則として8:30～14:30								
実習内容及び実習方法	<p>(実習内容) 対象者1名を自己決定し、関わりの実践場面を考察する。            (ロイのアセスメント・自己概念/役割機能/相互依存            対象との人間関係の場面ではペプロウの理論を活用してアセスメントする)</p> <p>(実習方法) 対象者と行動を共にし、対象理解に努め、対象理解を実践する。            *詳細については精神看護学実習要領および実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。</p>								
実習施設	医療法人 恵愛会 福間病院								
評価方法及び評価基準	1. 「評価規程」および「実習に関する規程」、「追実習および再実習に関する規程」に基づいて行う。 2. 対象理解とこころの実習状況及び試験結果を基に、評価表により100%評価とする。								
テキスト	ナーシンググラフィカ 「精神障害と看護の実践」・「精神障害と看護の実践」								
参考文献	参考図書：医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開 MSE I・II 精神保健福祉								
留意事項	精神看護学実習では対象者の身体的看護も実践するが、聴診器等は病棟のものを借用する。 不要な私物は持ち込まない。								
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行います。								

## 看護の統合と実践

### 専門分野

授業科目	統合実習	講師	氏名	権田園美	開講年次	単位・時間			
			所属	専任教員	3年次 後期	2単位 90時間			
			実務経験	臨床看護師					
実習目的	対象及び取り巻く環境を含め全人的に捉え、適切な看護を実践でき、臨床判断能力を身に付けることができる。また、看護チームの一員として看護の視点を持つことができる。								
到達目標									
知識・技術	1. 複数の対象の病態生理、優先順位を考えた看護を実践できる。 2. 対象に合わせた時間管理、行動計画が立案できる。 3. 対象の治療、検査を理解し、適切な看護を実践できる。 4. 夜勤時の看護師の役割、機能を理解し、述べることができる。 5. 各勤務帯を通して看護の継続に必要なシステムの実際を理解し、看護師の状況に応じた臨床判断の思考を理解する。 6. 病院組織の中の看護師の役割、多職種連携の在り方とその課題について考察できる。 7. 病院の組織の中での看護部組織と役割について説明できる。 8. 看護管理者で行っている役割とマネジメントについて説明できる。								
思考・判断・表現	1. チーム医療のもとに行われる治療・処置を受ける患者の状況を知り、看護チームにおける自らの行動を工夫できる。 2. 様々な場面に応じて判断し、看護実践ができる。 3. 臨床推論を使って、報告、相談ができる。								
主体的学習態度	1. 医療チームの一員として、適宜、連絡、報告、相談が実践できる。 2. グループで協力し、リーダーシップ、メンバーシップの役割を遂行できる。 3. 自己の看護観について探求することができる。								
実習期間及び実習時間	1. 実習期間：臨地実習 14日(88時間) 学内実習1日 (2時間) 2. 実習時間： 8:30～15:30 (日勤実習 8時間×6日 48時間) 10:00～11:30 (管理、病棟オリエンテーション及び学内 2時間×3日 6時間) 10:00～14:45 (遅出実習 5時間×1日 5時間) 10:00～12:15 (管理実習 3時間×1日 3時間) 15:30～19:15 (遅出実習 5時間×2日 10時間) 16:15～8:45 (夜勤実習 9時間×2日間にわたる 18時間)								
実習内容及び実習方法	1. 病棟実習 (実習内容) ①複数の対象者を受け持ち、夜勤実習を1回のみ行う。 ②時間管理、業務管理、人材管理に関する場面を見学し、管理の方法を学ぶ。 (実習方法) ①複数の対象を受け持ちチームの一員として看護実践を行う。 ②チームリーダー看護師と行動を共にし、様々な管理の実際を見学する *詳細については統合実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。								
評価方法および評価基準	1. 「評価規程」および「実習に関する規程」、「追実習および再実習に関する規程」に基づいて行う。 2. 原則、出席すべき時間の100%の出席をもって評価の対象とする。 3. 実習状況を基に、評価表により評価する。 病棟実習（看護管理を含む） 100%								
実習施設	社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院 (15日間)								
テキスト参考文献	看護マネジメント、医療安全で使用した教科書、参考書、配布資料、その他必要な文献								
留意事項	既習に知識と技術を統合する実習です。事前に看護師としての心構えを充分に行い実習に臨みましょう。								
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行います。								